



試験を実施した施設



10月13日



10月20日



10月27日



11月3日



11月10日



11月11日 C 試料



B-1 試料



A-1 試料



11月13日 B-2 試料



A-2 試料



11月17日 B-3 試料



A-3 試料



平成25年度 農薬登録に係る調理加工試験明細書

(試験期間 25年 9月～10月)

1. 被験物質

(1) 一般名・剤型

- ①ルフェヌロン・エマメクチン安息香酸塩 (アファームエクセラ) 顆粒水和剤
- ②プロプロフェジン・フェンピロキシメート (アプロードエース) フロアブル
- ③フルジオキシニル (セイビアー) フロアブル20
- ④フェナリモル (ルビゲン) 水和剤
- ⑤アゾキシストロピン (アミスター) 20フロアブル
- ⑥ミクロブタニル (ラリー) 水和剤

(2) 有効成分名及び成分含有率

- ①ルフェヌロン 2.5%、エマメクチン安息香酸塩 0.7%
- ②プロプロフェジン 20%、フェンピロキシメート 4%
- ③フルジオキシニル 20%
- ④フェナリモル 12%
- ⑤アゾキシストロピン 20%
- ⑥ミクロブタニル 10%

(3) 被験物質のLot No.

- ①15.10 SIK2K21014.TA3
- ②16.10.C3F09
- ③15.10 DAA067
- ④17.10 TBI007
- ⑤16.10 PAB618
- ⑥17.10.S2J35

2. 農作物名 ネットメロン

品種名 雅夏系2号

3. 試験実施機関名

一般社団法人 日本植物防疫協会 茨城研究所

試験圃場所在地

茨城県牛久女化町950番地 現地農家圃場

4. 試験責任者氏名

森田久孝、森田恭充、橋本龍裕、小川和己
柑本俊樹、後藤真人、宮川直也、有波友紀

5. 土性

砂土・砂壤土・壤土・埴壤土・埴土 (○を付す) 減水深 — cm/日

6. 過去1年間に作付けた作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

メロン：平成24年9月20日トリフィン水和剤3000倍、10月1日トップジンM水和剤1500倍・タコニール1000 1000倍
 すいか：平成25年4月18日ロフラー水和剤1000倍・アドマイヤー水和剤2000倍、5月1日ベルコート水和剤1000倍
 無栽培：6月6日カスタード微粒剤20kg/10a

7. 栽培概要

播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度 (畝間・株間)・株数/10a、水管理等、
被覆資材 (茶は寒れい砂番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい砂・いちご栽培の被覆時期を記載す

露地・施設の別

施設 (ビニールハウス)

有袋・無袋の別

—

播種：平成25年7月15日、定植：7月27日、立体栽培 (マルチ被覆)

栽植密度：畝間130cm、株間40cm、1条植え、約1900株/10a、草丈約1.8mで摘芯

施肥 (10a当たり)：7月20日 有機レット (5-8-6) 20kg、苦土重焼燐 20kg

その他の管理は、現地農家慣行。

収穫期間 (適期)：10月15日～10月20日

8. 生育ステージ

試験計画書に指定された生育ステージ
を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙1.に記載

10. 試験区

(1) 1試験区の面積および(株)数

処理区A：20.3㎡ (5.2m×1.3m×3畝) 39株、処理区B：20.3㎡ (5.2m×1.3m×3畝) 39株

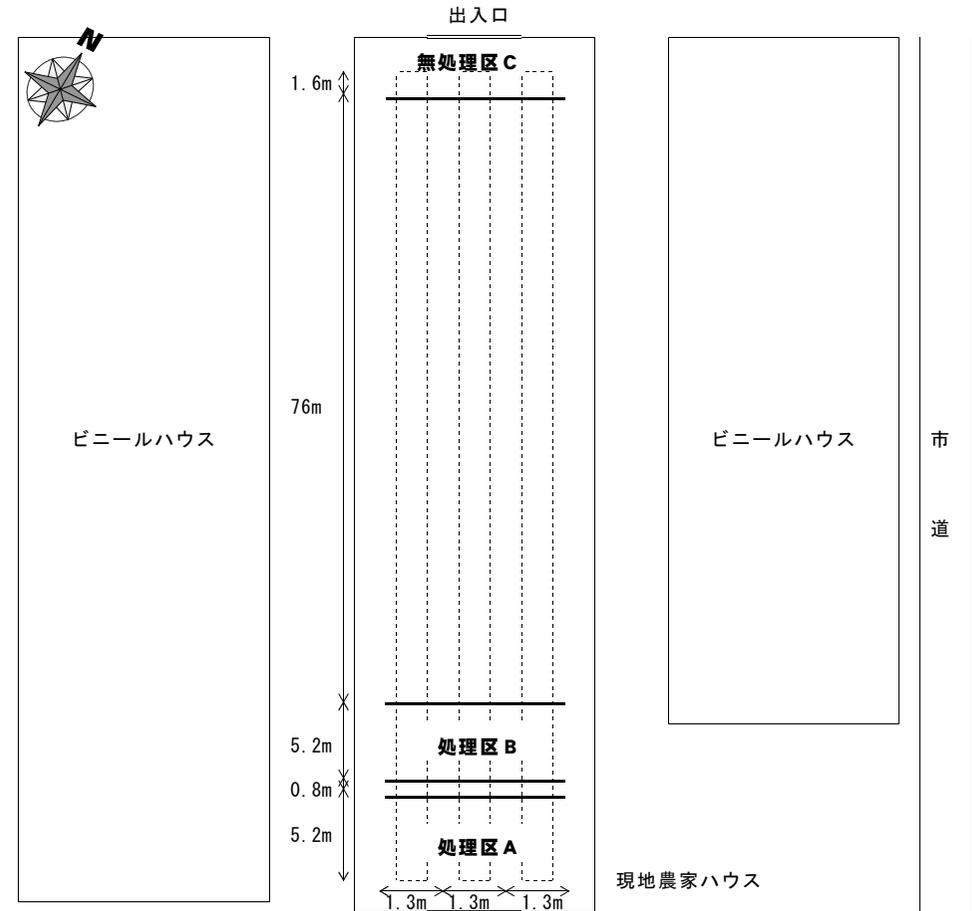
無処理区C：6.2㎡ (1.6m×1.3m×3畝) 12株

(2) 施設の場合、面積・容積・高さ

面積：405㎡、高さ：2.5m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

- ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。
- イ) 試験区間および試験区と無処理区との距離を記入して下さい。
- ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式)に記入したものを記載する)

採取月日	区分	A 区 試料番号	B 区 試料番号	C 区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
平成25年10月15日		A-1	B-1	C	A区 時刻: 8:50 ~ 8:55 天候: 曇り	C → A → B	6個/11.1kg	10月15日
					B区 時刻: 9:15 ~ 9:20 天候: 曇り		6個/10.6kg	
					C区 時刻: 8:20 ~ 8:25 天候: 曇り		6個/11.7kg	
10月17日		A-2	B-2		A区 時刻: 10:00 ~ 10:05 天候: 晴れ	A → B	6個/11.8kg	10月17日
					B区 時刻: 10:10 ~ 10:13 天候: 晴れ		6個/11.0kg	
10月21日		A-3	B-3		A区 時刻: 8:30 ~ 8:35 天候: 曇り	A → B	6個/12.1kg	10月21日
					B区 時刻: 8:40 ~ 8:45 天候: 曇り		6個/11.5kg	

採取月日	区分	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
平成25年10月15日		1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
10月17日		1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
10月21日		1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日		1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日		1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日		1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具(機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

各区、試験区の境界部(南北)をはずして、偏りがないように区全体から大きさの揃った試料を鉢で採取し、その都度清浄なプラスチック製のかごに入れた。

(2) 採取後の調製・梱包方法 試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱穀・梱すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

試料は、1個ずつ包装紙に包んで試料番号毎に段ボール箱に入れ、動かないように裁断した紙を詰めて箱の内側に試験区ラベル、外側に梱包シールを貼り付けて梱包した。作業は採取した順に行い、
資材は全てに未使用品を用いた。

(3) 試料送付先 分析機関: 一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、
輸送会社等

ヤマト運輸の冷蔵便で、いずれも到着を送付翌日に指定して送付した。

(5) 備考

別紙1. 被験物質以外に使用した農薬（試験作物への使用農薬）

平成25年 7月27日アクタラ粒剤2g/株
8月 9日ダコニール1000 1000倍・カスケード乳剤2000倍
8月13日アフーム乳剤2000倍
8月19日モレスタン水和剤3000倍・ダントツ水溶剤2000倍
8月25日ベストガード水溶剤1000倍
8月27日リドミルM Z水和剤1000倍
8月29日プレバソフフロアブル5 2000倍
8月31日トップジンM水和剤1500倍・モレスタン水和剤3000倍
9月 9日トリフミン水和剤3000倍・アフーム乳剤2000倍
9月18日トップジンM水和剤1500倍・ベストガード水溶剤1000倍
9月29日トリガード液剤1000倍

写真1. 試験ハウス全景



写真2. A区散布状況



写真3. A区1回目散布時の果実



写真4. A区2回目散布時の果実



写真5. A区3回目散布時の果実



写真6. B区散布状況



写真7. B区1回目散布時の果実



写真8. B区2回目散布時の果実



写真9. B区3回目散布時の果実



(H25ネットメロン調理加工)

写真10. B区4回目散布時の果実



写真11. 採取状況



写真12. A区1日後の果実



写真13. A区3日後の果実



写真14. A区7日後の果実



写真15. B区1日後の果実



写真16. B区3日後の果実



写真17. B区7日後の果実



写真18. C区の果実



平成25年度 農薬登録に係る調理加工試験明細書

(試験期間 25年10月 ~ 25年11月)

1. 被験物質

(1) 一般名・剤型

- ①ルフェヌロン・エマメクチン安息香酸塩 (アファームエクセラ) 顆粒水和剤
- ②プロプロフェジン・フェンピロキシメート (アプロードエース) フロアブル
- ③フルジオキシソニル (セイビアー) フロアブル20
- ④フェナリモル (ルビゲン) 水和剤
- ⑤アゾキシストロピン (アミスター) 20フロアブル
- ⑥ミクロブタニル (ラリー) 水和剤

(2) 有効成分名及び成分含有率

- ①ルフェヌロン 2.5%、エマメクチン安息香酸塩 0.7%
- ②プロプロフェジン 20%、フェンピロキシメート 4%
- ③フルジオキシソニル 20%
- ④フェナリモル 12%
- ⑤アゾキシストロピン 20%
- ⑥ミクロブタニル 10%

(3) 被験物質のLot No.

- ①15.10 SIK2K21014.TA3
- ②16.10.C3F09
- ③15.10.DAA067
- ④17.10.TBI007
- ⑤16.10.PAB618
- ⑥17.10.S2J35

2. 農作物名

ノーネットメロン

品種名

アカブルコ

3. 試験実施機関名

一般社団法人 日本植物防疫協会 茨城研究所

試験圃場所在地

茨城県牛久市結束町535番地

4. 試験責任者氏名

森田久孝、森田恭充、橋本龍治、小川和己
柑本俊樹、後藤真人、宮川直也、有波友紀

5. 土性

砂土・砂壤土・壤土・埴壤土・埴土 (○を付す)

減水深

— cm/日

6. 過去1年間に作付けた作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙1.に記載

7. 栽培概要

播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度 (畝間・株間)・株数 (/10a)、水管理等、
被験資材 (茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載す

露地・施設の別

施設 (ガラスハウス)

有袋・無袋の別

—

播種: 平成25年8月2日、定植: 8月29日、地這いマルチ被覆栽培

栽植密度: 畝間250cm、株間70cm、1条植え主枝3本仕立て、約570株/10a

施肥 (10a当たり): 8月28日配合594 (5-9-4) 70kg、過磷酸石灰25kg

その他の管理は、慣行に従った。

収穫期間 (適期): 11月上旬~11月中旬

8. 生育ステージ

試験計画書に指定された生育ステージ

— を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

8月13日アファーム乳剤2000倍、8月22日ソリレン30L/10a全面点注 (作付け圃場に処理)、

8月29日スピノース顆粒水和剤5000倍・ヘスタガード 粒剤2g/株植穴処理、9月13日モレスタン水和剤3000倍・

スピノース顆粒水和剤5000倍、9月20日モレスタン水和剤3000倍・アディオン乳剤2000倍、10月5日トリフィン水和剤

3000倍・ロブテール水和剤1000倍・コッツA1000倍・コマイト乳剤1000倍、10月11日リドミルMZ水和剤1000倍・

アディオン乳剤2000倍、10月18日ロブテール水和剤1000倍・モレスタン水和剤3000倍

10. 試験区

(1) 試験区の面積および(株)数

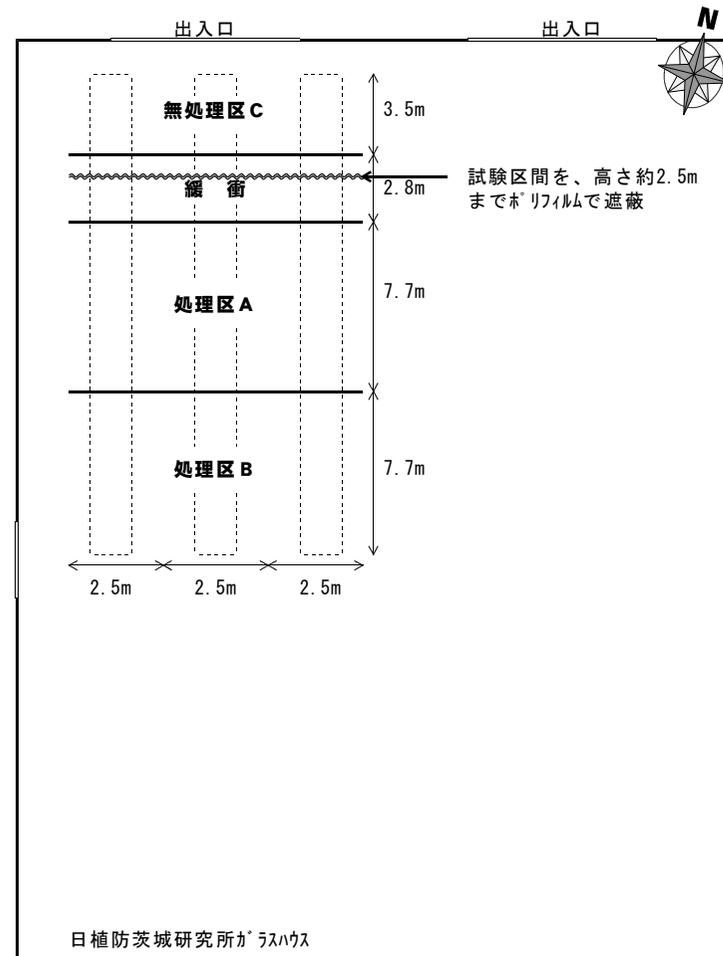
処理区A、処理区B: 各区57.8㎡ (7.7m×2.5m×3畝) 33株、無処理区C: 26.3㎡ (3.5m×2.5m×3畝) 15株

(2) 施設の場合、面積・容積・高さ

面積: 874.0㎡、容積: 2840.5㎡、高さ4.5m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙として構いません)

- ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。
- イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。
- ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



ビニールハウス

ビニールハウス

1.1. 処理方法 (下のA~G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区分 処理月日	A 区	B 区	C 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)	
					10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)	実際に秤量した農薬量/薬液量			
平成25年10月21日	アブ [®] ロート [®]		無処理	1000倍	251L	14.5ml/14.5L/57.8m ²	15.0ml/15.0L	果実肥大及び成熟期 (草丈約30cm)	茎葉散布 (混用)	
	セイビ [®] ア [®]			1000倍		14.5ml/14.5L/57.8m ²				15.0ml/15.0L
10月28日	アファ [®] ム			1000倍	251L	14.5g/14.5L/57.8m ²	15.0g /15.0L	成熟期(草丈約30cm)	茎葉散布 (混用)	
	アブ [®] ロート [®]			1000倍		14.5ml/14.5L/57.8m ²				15.0ml/15.0L
	セイビ [®] ア [®]			1000倍		14.5ml/14.5L/57.8m ²				15.0ml/15.0L
11月 4日	アファ [®] ム			1000倍	272L	15.7g /15.7L/57.8m ²	17.0g /17.0L	収穫初期(草丈約30cm)	茎葉散布 (混用)	
	アブ [®] ロート [®]			1000倍		15.7ml/15.7L/57.8m ²				17.0ml/17.0L
	セイビ [®] ア [®]			1000倍		15.7ml/15.7L/57.8m ²				17.0ml/17.0L

区分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具 (機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
			平成25年10月21日	散布機器：背負式バッテリー (丸山 MSB1500Li) ノズル：1頭口コーンノズル (狭角コーン：粒径は微細) 散布方法：試験区の各畝を均等に22分割し、各区画を一定の時間で 歩行して均一に散布した。
10月28日	時刻 13:30 ~ 13:43	天候：晴れ(日中晴れ)、風の影響なし。		
11月 4日	時刻 14:00 ~ 14:15	天候：曇り(日中晴れ時々曇り)、風の影響なし。		

(1) 展着剤 使用せず 使用した区番号 展着剤名 濃度または量

(2) 備考 試験薬剤の散布時には、無処理区への薬液の飛散を防止するため、試験区間をポリフィルムで高さ約2.5mまで遮蔽した。

1.1. 処理方法 (下のA~G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区分 処理月日	A 区	B 区	C 区	処理濃度	処 理 量			処理時の生育	処理方法 (概略)
					1 Oa当	試験区当 (農薬量/散布量/面積)	実際に秤量した農薬量/薬液量		
平成25年10月14日		ルビクセン	無処理	10000倍	230L	1.33g/13.3L/57.8m ²	1.4g/14.0L	果実肥大及び成熟期 (草丈約30cm)	茎葉散布 (混用)
		アミスター		2000倍		6.65ml/13.3L/57.8m ²	7.0ml/14.0L		
10月21日		ルビクセン		10000倍	251L	1.45g/14.5L/57.8m ²	1.8g/18.0L	果実肥大及び成熟期 (草丈約30cm)	茎葉散布 (混用)
		アミスター		2000倍		7.25ml/14.5L/57.8m ²	9.0ml/18.0L		
		ラリー		6000倍		2.42ml/14.5L/57.8m ²	3.0g/18.0L		
10月28日		ルビクセン		10000倍	251L	1.45g/14.5L/57.8m ²	1.8g/18.0L	成熟期 (草丈約30cm)	茎葉散布 (混用)
		アミスター		2000倍		7.25ml/14.5L/57.8m ²	9.0ml/18.0L		
		ラリー		6000倍		2.42ml/14.5L/57.8m ²	3.0g/18.0L		
11月 4日		ルビクセン		10000倍	272L	1.57g/15.7L/57.8m ²	1.8g/18.0L	収穫初期 (草丈約30cm)	茎葉散布 (混用)
		アミスター		2000倍		7.85ml/15.7L/57.8m ²	9.0ml/18.0L		
		ラリー		6000倍		2.62ml/15.7L/57.8m ²	3.0g/18.0L		

区分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況	
		処理時の使用器具 (機械)、樹幹塗布、湛水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する
平成25年10月14日	散布機器：背負式バッテリー (丸山 MSB1500Li) ノズル：1頭口コーンノズル (狭角コーン：粒径は微細) 散布方法：試験区の各畝を均等に22分割し、各区画を一定の時間で 歩行して均一に散布した。	時刻 13:10 ~ 13:22	天候：晴れ (日中晴れ時々曇り)、風の影響なし。
10月21日		時刻 13:25 ~ 13:38	天候：晴れ (日中晴れ)、風の影響なし。
10月28日		時刻 14:15 ~ 14:28	天候：晴れ (日中晴れ)、風の影響なし。
11月 4日		時刻 14:45 ~ 15:00	天候：曇り (日中晴れ時々曇り)、風の影響なし。

- (1) 展着剤 使用せず 使用した区番号 展着剤名 濃度または量
- (2) 備考 試験薬剤の散布時には、無処理区への薬液の飛散を防止するため、試験区間をポリフィルムで高さ約2.5mまで遮蔽した。

1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式)に記入したものを記載する)

採取月日	区分			試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
	A 区	B 区	C 区				
平成25年11月 5日	A - 1	B - 1	C	A区時刻: 11:10 ~ 11:15 天候:晴れ	C → A → B	6個/7.3kg	11月 5日
				B区時刻: 11:30 ~ 11:35 天候:晴れ		6個/7.0kg	
				C区時刻: 10:25 ~ 10:30 天候:晴れ		6個/7.7kg	
11月 7日	A - 2	B - 2		A区時刻: 9:20 ~ 9:25 天候:雨	A → B	6個/7.1kg	11月 7日
				B区時刻: 9:35 ~ 9:45 天候:雨		6個/7.7kg	
11月11日	A - 3	B - 3		A区時刻: 9:00 ~ 9:10 天候:曇り	A → B	6個/7.4kg	11月11日
				B区時刻: 9:20 ~ 9:30 天候:曇り		6個/7.5kg	

採取月日	区分	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
平成25年11月 5日		1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
11月 7日		1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
11月11日		1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日		1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日		1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日		1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具(機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

各区、試験区の境界部(南北)をはずし、偏りがないように区全体から大きさの揃った試料を鉢で採取して、その都度清浄なプラスチック製のかごに入れた。

(2) 採取後の調製・梱包方法 試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱穀・糠すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

採取した試料は、1個ずつ包装紙で包んで段ボール箱に入れ、動かないように裁断した紙を詰めて箱の内側に試験区ラベル、外側に梱包シールを貼り付けて梱包した。作業はいずれも採取した順に行い、各試料別梱包とし、資材は全て未使用品を用いた。

(3) 試料送付先 分析機関: 一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、
輸送会社等

ヤマト運輸の冷蔵便で、いずれも到着を送付翌日に指定して送付した。

(5) 備考

別紙1. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬

しゅんぎく、こまつな、ほうれんそう、かぶ:

平成24年10月15日	アフーム乳剤2000倍・ベストガード水溶剤1000倍・スピノエース顆粒水和剤5000倍
11月9日	モスピラン水溶剤4000倍・アフーム乳剤2000倍・ダコニール1000 1000倍
11月16日	アフーム乳剤2000倍・アミスター20フロアブル2000倍・トップジンM水和剤1500倍
11月21日	アフーム乳剤2000倍・ランマンフロアブル2000倍
平成25年2月18日	トップジンM水和剤1000倍
2月28日	ディアナSC2500倍・5000倍

パセリ:

平成25年5月2日	ガードホープ液剤4000倍・ダコニール1000 1000倍
6月11日	イキイキグリーン水和剤500倍
6月18日	トリフミン水和剤8000倍・インプレッション水和剤500倍
6月25日	トリフミン水和剤8000倍
7月2日	アグリマイシンー100 1000倍・トリフミン水和剤8000倍
7月29日	トリフミン水和剤8000倍

別紙2. 試験風景

写真1. ハウス全景



写真2. 散布状況(奥が無処理区: ポリフィルムによる遮蔽幕設置)



写真3. A区第1回散布時の果実の大きさ



写真4. A区第2回散布時の果実の大きさ



写真5. A区第3回散布時の果実の大きさ



(H25ノーネットメロン調理加工)

写真6. B区散布状況



試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

写真7. B区第1回散布時の果実の大きさ



写真8. B区第2回散布時の果実の大きさ



写真9. B区第3回散布時の果実の大きさ



写真10. B区第4回散布時の果実の大きさ



写真11. 試料採集の状況



写真12. A区1日後の試料



写真13. A区3日後の試料



写真14. A区7日後の試料



写真15. B区1日後の試料



写真16. B区3日後の試料



写真17. B区7日後の試料



写真18. C区（無処理）の試料



平成25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 25年10月 ~ 25年11月)

1. 被験物質 (処理区A)

- (1) 一般名・剤型 ①ルフェスロン・エマメクチン安息香酸塩(アファムエキセラ顆粒水和剤), ②プロフェンシオン・フェンピロキシメート(アプロート・エスフロアブル), ③フルシオキシニル(セイビアフロアブル20%)
 (2) 有効成分名及び成分含有率 ①ルフェスロン 2.5%・エマメクチン安息香酸塩 0.70%, ②プロフェンシオン 20.0%・フェンピロキシメート 4.0%, ③フルシオキシニル 20.0%
 (3) 被験物質のLot No. ①SIK2K21014.TA3, ②C3F09, ③DAA067。

被験物質 (処理区B)

- (1) 一般名・剤型 ④フェナリモル(ルビゲン水和剤), ⑤アゾキシストロピン(アミスター20フロアブル), ⑥ミクロプロタニル(アリア水和剤)
 (2) 有効成分名及び成分含有率 ④フェナリモル 12.0%, ⑤アゾキシストロピン 20.0%, ⑥ミクロプロタニル 10.0%
 (3) 被験物質のLot No. ④10TBI007, ⑤PAB618, ⑥S2J35。

2. 農作物名 メロン (ネット) 品種名 アールスK早晩

3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

試験圃場所在地 高知県香南市夜須町

4. 試験責任者氏名 松村 栄二, 内藤 寛, 奴田原 誠克, 森 克彦, 飯干 浩美, 中村 達都, 川北 充彦, 谷山 頼清。

5. 土性 砂土・砂壤土・壤土 (埴壤土)・埴土・軽埴土 (○を付す) 減水深 — cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

7. 栽培概要 播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度 (畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、被覆資材 (茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トビ栽培の被覆時期を記載する

露地・施設の別 施設栽培 有袋・無袋の別 —

播種: 平成25年8月17日, 定植: 9月4日, 畝幅: 140cm, 株間: 36cm,

1条植, 約2000株/10a, 施肥: 平成25年9月2日 バイオユウキS (7.2-4-2.5) 300kg/10a,

ジャットPK (1-13-10) 37.5kg/10a, ジャット加里 (0-0-33.5) 37.5kg/10a

人工交配: 10月26日~10月29日, マルチ栽培 加温栽培, その他管理は慣行に従った。

収穫期間 (適期): 平成25年11月中旬。

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージ — を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

10. 試験区

(1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A, B: 各12.6㎡, 25株, 無処理区C: 5.0㎡, 10株

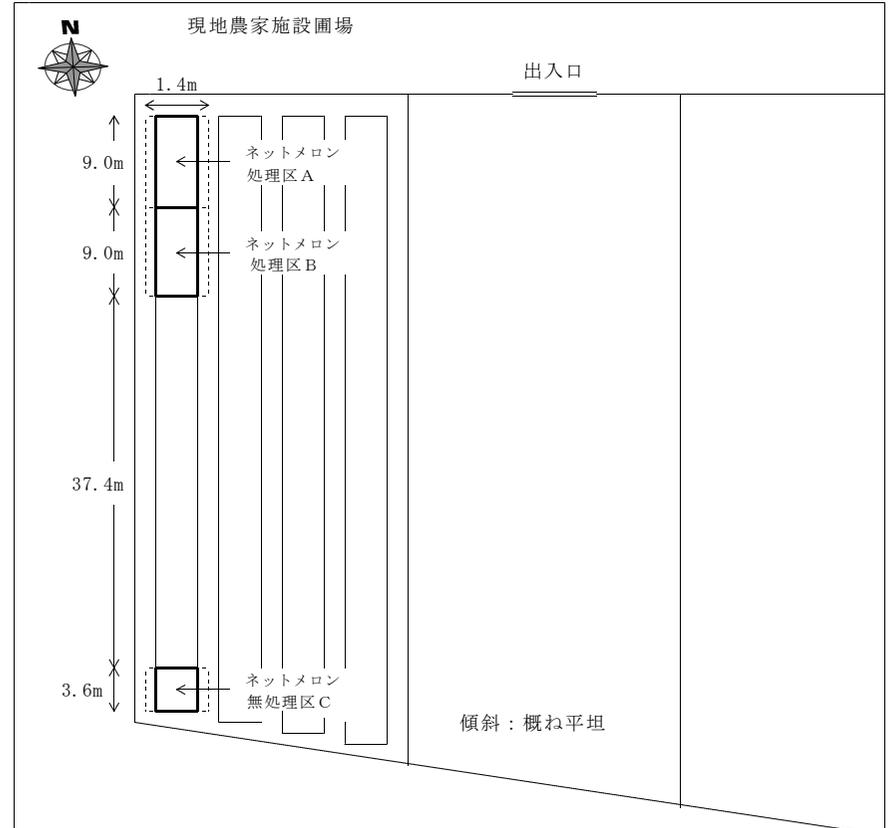
(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 面積: 1555㎡, 高さ: 3.1m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



1 1. 処理方法 (下の A~G 欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処理濃度	処理量		処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)
							10a当	試験区当 (農薬量/散布量/面積)		
H25年10月28日	②, ③	/	無処理			②1000倍, ③1000倍	278L	②3.5mL, ③3.5mL /3.5L/12.6m ²	成熟期	茎葉散布
11月4日	①, ②, ③	/				①1000倍, ②1000倍, ③1000倍	278L	①3.5g, ②3.5mL, ③3.5mL /3.5L/12.6m ²	成熟期	茎葉散布
11月11日	①, ②, ③	/				①1000倍, ②1000倍, ③1000倍	278L	①3.5g, ②3.5mL, ③3.5mL /3.5L/12.6m ²	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	①アファームエクト7顆粒水和剤 ②アプロートエースフロアブル ③セヒアフロアブル20									
月 日										
H25年10月21日	/	④, ⑤	無処理			④10000倍, ⑤2000倍	278L	④0.35g, ⑤1.75mL /3.5L/12.6m ²	ネット形成期	茎葉散布
10月28日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	278L	④0.35g, ⑤1.75mL, ⑥0.58g /3.5L/12.6m ²	成熟期	茎葉散布
11月4日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	278L	④0.35g, ⑤1.75mL, ⑥0.58g /3.5L/12.6m ²	成熟期	茎葉散布
11月11日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	278L	④0.35g, ⑤1.75mL, ⑥0.58g /3.5L/12.6m ²	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	④ルビゲン水和剤 ⑤アミスター20フロアブル ⑥テラー水和剤									
月 日										
月 日										

区分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具 (機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況
		特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H25年10月21日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; B区: 16:00 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
10月28日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 16:00, B区: 15:50 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
11月4日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 12:30, B区: 12:20 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
11月11日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 16:30, B区: 16:20 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 曇
月 日			
月 日			

(1) 展着剤 使用せず。 使用した区番号 ー 展着剤名 ー 濃度または量 ー

(2) 備考 ー

1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式)に記入したものを記載する)

区分 採取月日	A区 試料番号	B区 試料番号	C区 試料番号	D区 試料番号	E区 試料番号	F区 試料番号	G区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
H25. 11月12日	A-1	B-1	C (無処理)					採取A, B, C; 8:20 ~ 8:40 天候: 晴れ	C → B → A	A区: 6個(11.1kg) B区: 6個(11.4kg) × 1分析 C区: 6個(10.2kg)	11月12日
11月14日	A-2	B-2						採取 A, B; 8:30 ~ 8:45 天候: 晴れ	B → A	A区: 6個(11.6kg) B区: 6個(11.7kg) × 1分析	11月14日
11月18日	A-3	B-3						採取 A, B; 8:30 ~ 8:45 天候: 晴れ	B → A	A区: 6個(11.5kg) B区: 6個(11.7kg) × 1分析	11月18日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日

区分 採取月日	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
H25. 11月12日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
11月14日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
11月18日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具(機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

処理区および無処理区試料は、試験区の境界部を除く試験区全体から鉢を用いて採取した。

採取した試料は、直ちに採取用カゴに入れた。そして場内の試料調製室まで運んだ。

(2) 採取後の調製・梱包方法 試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱粒・脱すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

果実を個別に包装紙で包んだ後、包装紙を敷いたダンボール箱に並べて入れ梱包した。

緩衝材として包装紙を使用した。ダンボール箱の内側には試験区ラベルを、外側には梱包シールを貼り付けた。

試験区ごと別々に梱包した。

(3) 試料送付先 分析機関: 一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、
輸送会社等

到着日を送付翌日に指定し、ヤマト運輸株式会社の冷蔵便で送付した。

(5) 備考 -

(25-調理加工 (高知I) ネットメロン)

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬

平成25年春夏作：メロン

平成25年.4/21 アファム乳剤 1500倍, ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,

5/12 トリアミン水和剤 3000倍, プレバソフアブル5 1500倍, デコール1000 1000倍 散布,

5/30 ラノール剤 2000倍, サンマイフロアブル 2000倍, イオウフロアブル 1000倍 散布,

6/17 アファム乳剤 1500倍, トリアミン水和剤 3000倍, ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,

7/1 アクロシン乳剤 1000倍, カスケード乳剤 2000倍 散布。

9. 被験物質以外に使用した農薬

平成25年.9/4 アファム乳剤 1500倍, ジャックボット顆粒水和剤 1000倍 散布,

9/14 ヘスタート水溶剤 1000倍, プレバソフアブル5 1500倍 散布,

9/23 カスケード乳剤 2000倍, ジャックボット顆粒水和剤 1000倍, イオウフロアブル 1000倍 散布,

10/8 ラノール剤 2000倍, サンマイフロアブル 2000倍, トップジンM水和剤 1500倍 散布,

10/31 デリシン水和剤 1000倍, ウララDF 2000倍, トリアミン水和剤 3000倍, ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,

11/10 アクロシン乳剤 1000倍, ウララDF 2000倍, トリアミン水和剤 3000倍, カスケード乳剤 2000倍,

アクリメック 800倍 散布。

気象表

観測地点および試料調製場所：高知県香南市夜須町 現地農家

気温：平均気温 (1 時間毎)

降水量：日界 _____ 時

記号；○：薬剤処理日
△：試料採取日

(25年)

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
10	気温 (施設内温度)																					24.0	22.9	22.7	23.4	21.4	21.7	20.8	20.9	21.9	21.7	22.0					
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取																						○							○							
	区記号 (試料番号)																						B							A, B							
11	気温 (施設内温度)	21.6	20.5	22.3	21.2	20.6	20.5	20.8	20.4	21.2	21.1	19.5	19.8	20.7	21.2	19.6	20.1	19.3	18.0																		
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取				○							○	△		△					△																	
	区記号 (試料番号)				A, B							A, B	A-1, B-1, C		A-2, B-2					A-3, B-3																	
	気温 (施設内温度)																																				
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取																																				
	区記号 (試料番号)																																				
	気温 (施設内温度)																																				
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取																																				
	区記号 (試料番号)																																				
	気温 (施設内温度)																																				
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取																																				
	区記号 (試料番号)																																				

薬剤処理日 (ガス抜き等を含む)、試料採取日等を記号で記入する。

また薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号 (試験区ラベルと同様の番号) を当該欄へ記入する。

施設内気温測定には、テラコガー (株式会社 ティアンドティ おんどとりTR-71Ui) を使用した。

写真1. 処理区全景



写真2. 処理区全景



写真3. 10月21日処理時の果実の大きさ



写真4. 10月28日処理時の果実の大きさ



写真5. 11月4日処理時の果実の大きさ



写真6. 11月11日処理時の果実の大きさ



写真7. 11月12日採取試料の果実の大きさ



写真8. 11月14日採取試料の果実の大きさ



写真9. 11月18日採取試料の果実の大きさ



平成25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 25年10月 ~ 25年11月)

1. 被験物質 (処理区A)

- (1) 一般名・剤型 ①ルフェエロン・エマメクチン安息香酸塩(アファームエキセラ顆粒水和剤),
②アプロフェンシオン・フェンピロキシメート(アプロートエスフロアブル), ③フルシクオキゾニル(セイブアフロアブル20)。
- (2) 有効成分名及び成分含有率 ①ルフェエロン 2.5%・エマメクチン安息香酸塩 0.70%,
②アプロフェンシオン 20.0%・フェンピロキシメート 4.0%, ③フルシクオキゾニル 20.0%。
- (3) 被験物質のLot No. ①SIK2K21014.TA3, ②C3F09, ③DAA067。

被験物質 (処理区B)

- (1) 一般名・剤型 ④フェナリモル(ルビゲン水和剤), ⑤アゾキシストロピン(アミスター20フロアブル),
⑥シクロプロタニル(アリア水和剤)。
- (2) 有効成分名及び成分含有率 ④フェナリモル 12.0%, ⑤アゾキシストロピン 20.0%,
⑥シクロプロタニル 10.0%。
- (3) 被験物質のLot No. ④10TBI007, ⑤PAB618, ⑥S2J35。

2. 農作物名 メロン (ノーネット) 品種名 ホームランスター改良系

3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

試験圃場所在地 高知県香南市野市町深瀬本田1211

4. 試験責任者氏名 松村 栄二, 内藤 寛, 奴田原 誠克, 森 克彦, 飯干 浩美,
中村 達都, 川北 充彦, 谷山 頼清。

5. 土性 砂土・砂壤土・壤土 (埴壤土)・埴土・軽埴土 (○を付す) 減水深 ー cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

7. 栽培概要 播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、
被覆資材(茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トネ栽培の被覆時期を記載する。

露地・施設の別 施設栽培 有袋・無袋の別 ー

播種：平成25年8月12日， 定植：9月6日， 畝幅：280cm， 株間：40cm，

畝肩1条植2本仕立て， 約900株/10a， 施肥：平成25年8月1日 ケントップ 1500kg/10a，

苦土石灰 100kg/10a。マルチ栽培， 加温栽培， 人工交配：9月30日～10月13日，

その他管理は慣行に従った。

収穫期間 (適期)：平成25年11月中旬。

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージ
を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

10. 試験区

(1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A, B : 各28.0m², 25株, 無処理区C : 11.2m², 10株

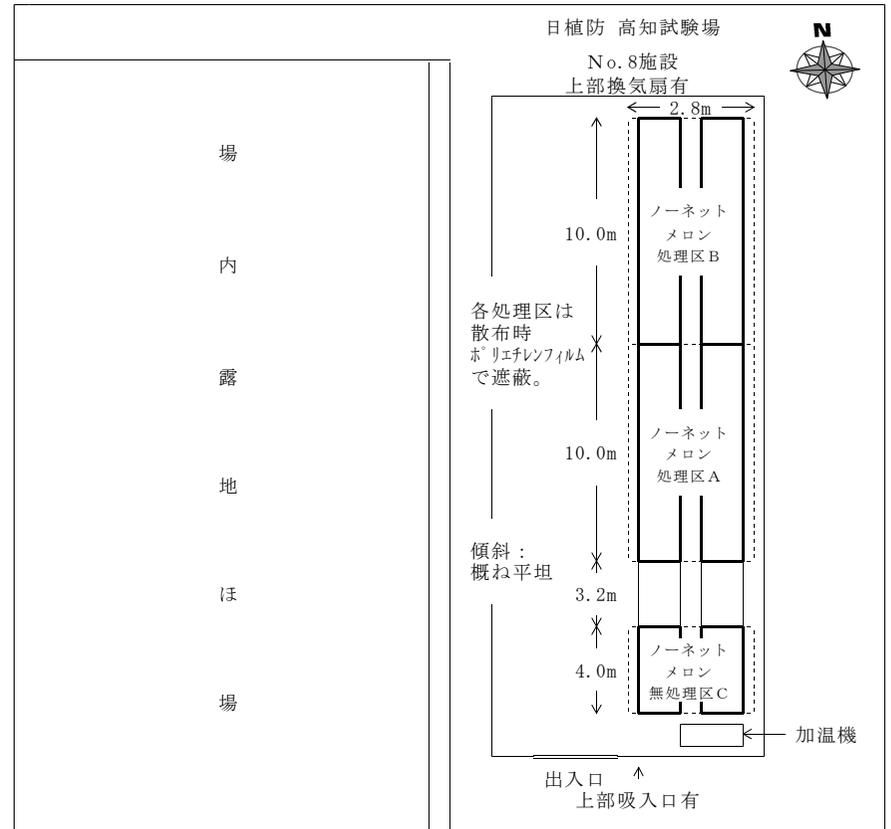
(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 面積：225m², 容積：680m³, 高さ：3.4m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



1 1. 処理方法 (下のA~G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処理濃度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)
							1 0 a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
H25年10月28日	②, ③	/	無処理			②1000倍, ③1000倍	279 L	②7.8mL, ③7.8mL /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
11月4日	①, ②, ③	/				①1000倍, ②1000倍, ③1000倍	279 L	①7.8g, ②7.8mL, ③7.8mL /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
11月11日	①, ②, ③	/				①1000倍, ②1000倍, ③1000倍	279 L	①7.8g, ②7.8mL, ③7.8mL /7.8L/28.0m ²	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	①アファームエクトセ7顆粒水和剤 ②アプロートエースフロアブル ③セヒアフロアブル20									
月 日										
H25年10月21日	/	④, ⑤	無処理			④10000倍, ⑤2000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL /7.8L/28.0m ²	果実肥大期	茎葉散布
10月28日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL, ⑥1.3g /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
11月4日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL, ⑥1.3g /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
11月11日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL, ⑥1.3g /7.8L/28.0m ²	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	④ルビゲン水和剤 ⑤アミスター20フロアブル ⑥テラー水和剤									
月 日										
月 日										

区分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具 (機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況
		特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
H25年10月21日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; B区: 15:10 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
10月28日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 15:00, B区: 15:00 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
11月4日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 11:40, B区: 11:20 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
11月11日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 15:40, B区: 15:30 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 曇
月 日			
月 日			

(1) 展着剤 使用せず。 使用した区番号 ー 展着剤名 ー 濃度または量 ー

(2) 備考 ー

1.2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式)に記入したものを記載する)

区分 採取月日	A区 試料番号	B区 試料番号	C区 試料番号	D区 試料番号	E区 試料番号	F区 試料番号	G区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
H25. 11月12日	A-1	B-1	C (無処理)					採取 A,B; 9:55 ~ 10:10 C; 7:40 ~ 7:50 天候: 晴れ	C → B → A	A区: 6個(9.8kg) B区: 6個(9.4kg) × 1分析 C区: 6個(9.8kg)	11月12日
11月14日	A-2	B-2						採取 A,B; 10:00 ~ 10:15 天候: 晴れ	B → A	A区: 6個(9.3kg) B区: 6個(8.5kg) × 1分析	11月14日
11月18日	A-3	B-3						採取 A,B; 9:45 ~ 10:00 天候: 晴れ	B → A	A区: 6個(9.4kg) B区: 6個(9.7kg) × 1分析	11月18日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日

区分 採取月日	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
H25. 11月12日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
11月14日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
11月18日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input type="radio"/> やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input type="radio"/> やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input type="radio"/> やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input type="radio"/> やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input type="radio"/> やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input type="radio"/> やや過熟) 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法

使用した器具(機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

処理区および無処理区試料は、試験区の境界部を除く試験区全体から鋏を用いて採取した。

採取した試料は、直ちに採取用カゴに入れた。そして場内の試料調製室まで運んだ。

(2) 採取後の調製・梱包方法

試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱穀・脱すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

果実を個別に包装紙で包んだ後、包装紙を敷いたダンボール箱に並べて入れ梱包した。

緩衝材として包装紙を使用した。ダンボール箱の内側には試験区ラベルを、外側には梱包シールを貼り付けた。

試験区ごと別々に梱包した。

(3) 試料送付先

分析機関: 一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法

到着日指定、温度指定、
輸送会社等

到着日を送付翌日に指定し、ヤマト運輸株式会社の冷蔵便で送付した。

(5) 備考

(25-調理加工 (高知I) ノーネットメロン)

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬

平成24年秋冬作：かぶ

平成24年.9/28 クーロビ[®]リン液剤 31.1L/10a 土壌注入,
11/6 モスビ[®]ラン水溶剤 2000倍, アファーム乳剤 2000倍 散布。

平成24年秋冬作：セルリー

平成25年.3/14 アファーム乳剤 2000倍, アミスター-20フロアブル 2000倍 散布,
3/25, 4/1, 8 アニキ乳剤 1000倍 散布。

平成25年春夏作：すいか

平成25年.5/28 ベストガード[®]水溶剤 1000倍 散布,
6/25 アファーム乳剤 1000倍, アドマイヤー[®]顆粒水和剤 10000倍 散布,
7/5 ハチハチ乳剤 1000倍, カネマイトフロアブル 1000倍 散布,
6/17, 24, 7/1, 8 アテ[®]イオン乳剤 2000倍 散布,
6/24, 7/1, 8 テルスター[®]水和剤 1000倍 散布,
6/24, 7/1, 8 マネージ[®]DF 2000倍 散布,
7/8 プレオフロアブル 1000倍 散布,
6/17, 24, 7/1, 8 オリオン水和剤 1000倍 散布,
6/17, 24, 7/1, 8 トップジンM水和剤 1500倍 散布,
7/1, 8 アフェットフロアブル 2000倍 散布,
7/8 タニグッター[®]フロアブル 2000倍 散布,
7/8 レーバ[®]スフロアブル 2000倍 散布,
6/3, 10, 17, 24, 7/1, 8 テーク水和剤 600倍 散布,
6/10, 17, 24, 7/1, 8 カスケード[®]乳剤 2000倍 散布,
6/17, 24, 7/1, 8 フェスティバルC水和剤 1000倍 散布,
6/17, 24, 7/1, 8 フォリオ[®]コートフロアブル 800倍 散布,
6/24, 7/1, 8 スタークル[®]顆粒水和剤 2000倍 散布。

9. 被験物質以外に使用した農薬

平成25年.8/26 (育苗期) プレオフロアブル 1000倍 散布,
9/2 (育苗期) プレオフロアブル 1000倍, アドマイヤー[®]顆粒水和剤 10000倍 散布,
10/2 アグリメック 1000倍, アドマイヤー[®]フロアブル 4000倍, ベルコートフロアブル 1000倍 散布,
10/4 プレハ[®]ランフロアブル5 2000倍 散布,
10/29 モレスタン水和剤 3000倍, サンマイトフロアブル 1000倍, アドマイヤー[®]フロアブル 4000倍, トルネード[®]フロアブル 2000倍 散布,
9/30~10/13 (毎日) ジベレリン 100ppm, トマトーン 50倍 処理。

気象表

観測地点および試料調製場所：高知県香南市野市町深淵 日本植物防疫協会 高知試験場

気温：平均気温 (1 時間毎)

降水量：日界 _____ 時

記号；○：薬剤処理日

△：試料採取日

(25年)

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
10	気温 (施設内温度)																					24.0	22.5	21.8	22.6	20.2	21.8	19.4	19.4	20.9	20.8	20.5
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取																						○							○		
	区記号 (試料番号)																						B							A, B		
11	気温 (施設内温度)	22.0	20.8	22.4	22.2	20.1	20.8	20.9	19.2	20.7	20.6	18.6	16.6	18.3	16.7	17.5	17.4	17.1	16.5													
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取				○							○	△		△					△												
	区記号 (試料番号)				A, B							A, B	A-1, B-1, C		A-2, B-2					A-3, B-3												
	気温 (施設内温度)																															
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取																															
	区記号 (試料番号)																															
	気温 (施設内温度)																															
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取																															
	区記号 (試料番号)																															
	気温 (施設内温度)																															
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取																															
	区記号 (試料番号)																															

薬剤処理日 (ガス抜き等を含む)、試料採取日等を記号で記入する。

また薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号 (試験区ラベルと同様の番号) を当該欄へ記入する。

施設内気温測定には、テークガー (株式会社 ティアンドティ おんどとり TR-71Ui) を使用した。

写真1. 処理区全景



写真2. 10月21日処理時の果実の大きさ



写真3. 10月28日処理時の果実の大きさ



写真4. 11月4日処理時の果実の大きさ



写真5. 11月11日処理時の果実の大きさ



写真6. 11月12日採取試料の果実の大きさ



写真7. 11月14日採取試料の果実の大きさ



写真8. 11月18日採取試料の果実の大きさ



平成25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 25年11月 ~ 25年12月)

1. 被験物質 (処理区A)

- (1) 一般名・剤型 ①ルフェスロン・エマメクチン安息香酸塩(アファムエクセラ顆粒水和剤),
②アプロフェンシオン・フェンピロキシメート(アプロートエースフロアブル), ③フルシクソニル(セビアフロアブル20)。
- (2) 有効成分名及び成分含有率 ①ルフェスロン 2.5%・エマメクチン安息香酸塩 0.70%,
②アプロフェンシオン 20.0%・フェンピロキシメート 4.0%, ③フルシクソニル 20.0%。
- (3) 被験物質のLot No. ①SIK2K21014.TA3, ②C3F09, ③DAA067。

被験物質 (処理区B)

- (1) 一般名・剤型 ④フェナリモル(ルビゲン水和剤), ⑤アゾキシストロピン(アミスター20フロアブル),
⑥ミクロプロタニル(アリア水和剤)。
- (2) 有効成分名及び成分含有率 ④フェナリモル 12.0%, ⑤アゾキシストロピン 20.0%,
⑥ミクロプロタニル 10.0%。
- (3) 被験物質のLot No. ④I0TBI007, ⑤PAB618, ⑥S2J35。

2. 農作物名 メロン (ネット) 品種名 雅秋冬412

3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

試験圃場所在地 高知県香南市野市町深淵本田1211

4. 試験責任者氏名 松村 栄一, 内藤 寛, 坂田原 誠克, 森 克彦, 飯干 浩美,
中村 達都, 川北 充彦, 谷山 頼清。

5. 土性 砂土・砂壤土 (壤土) 壇壤土・埴土・軽埴土 (○を付す) 減水深 - cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

7. 栽培概要 播種期・移植期・施肥の種類・量・時期・樹齢・栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、
被覆資材(茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トシ栽培の被覆時期を記載する

露地・施設の別 施設栽培 有袋・無袋の別 -

播種: 平成25年9月2日, 定植: 9月18日, 畝幅: 140cm, 株間: 40cm, 1条植,

約1800株/10a, マルチ栽培, 加温栽培, 施肥: 平成25年8月22日 ケントップ 1500kg/10a,

苦土石灰 100kg/10a, 9月11日 こうち園芸ペレット (6-8-4) 67kg/10a,

その他管理は慣行に従った。

人工交配: 10月13日~10月17日。

収穫期間(適期): 平成25年12月中旬。

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージ
を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

10. 試験区

(1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A, B: 各28.0㎡, 50株

無処理区C: 11.2㎡, 20株

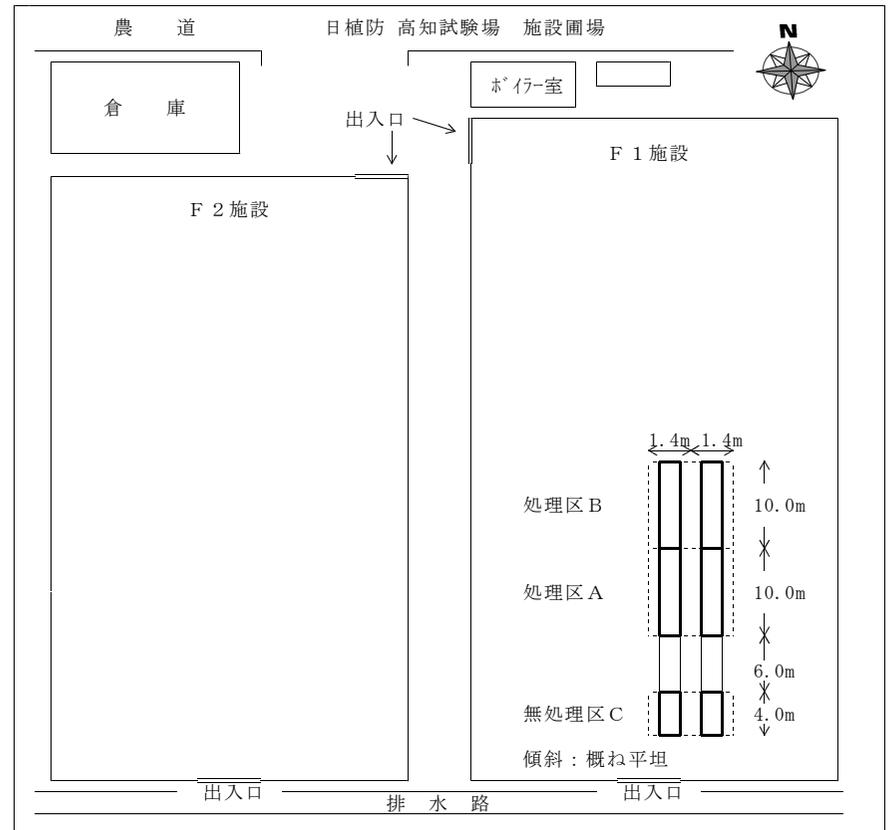
(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 面積: 986㎡, 容積: 2909㎥, 高さ: 3.9m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



1 1. 処理方法 (下のA~G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処 理 濃 度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)
							1 0 a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
H25年11月25日	②, ③	/	無処理			②1000倍, ③1000倍	279 L	②7.8mL, ③7.8mL /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
12月2日	①, ②, ③	/				①1000倍, ②1000倍, ③1000倍	279 L	①7.8g, ②7.8mL, ③7.8mL /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
12月9日	①, ②, ③	/				①1000倍, ②1000倍, ③1000倍	279 L	①7.8g, ②7.8mL, ③7.8mL /7.8L/28.0m ²	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	①アファームエクト7顆粒水和剤 ②アプロートエースフロアブル ③セヒアフロアブル20									
月 日										
H25年11月18日	/	④, ⑤	無処理			④10000倍, ⑤2000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
11月25日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL, ⑥1.3g /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
12月2日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL, ⑥1.3g /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
12月9日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL, ⑥1.3g /7.8L/28.0m ²	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	④ルビゲン水和剤 ⑤アミスター20フロアブル ⑥テラー水和剤									
月 日										
月 日										

区分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具 (機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況
		土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する
H25年11月18日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; B区: 13:55 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
11月25日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 14:25, B区: 14:40 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 曇
12月2日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 11:45, B区: 12:00 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
12月9日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 14:25, B区: 13:55 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 曇
月 日			
月 日			

(1) 展着剤 使用せず。 使用した区番号 ー 展着剤名 ー 濃度または量 ー

(2) 備考 ー

1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式)に記入したものを記載する)

区分 採取月日	A区 試料番号	B区 試料番号	C区 試料番号	D区 試料番号	E区 試料番号	F区 試料番号	G区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
H25. 12月10日	A-1	B-1	C (無処理)					採取 A, B; 10:30 ~ 10:45 C; 9:30 ~ 9:40 天候: 晴れ	C → B → A	A区: 6個(8.3kg) B区: 6個(8.4kg) × 1分析 C区: 6個(9.7kg)	12月10日
12月12日	A-2	B-2						採取 A, B; 10:10 ~ 10:25 天候: 晴れ	B → A	A区: 6個(8.6kg) B区: 6個(9.0kg) × 1分析	12月12日
12月16日	A-3	B-3						採取 A, B; 10:30 ~ 10:45 天候: 曇	B → A	A区: 6個(8.5kg) B区: 6個(9.2kg) × 1分析	12月16日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日

区分 採取月日	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
H25. 12月10日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
12月12日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
12月16日	1. 試料の大きさは(やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具(機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

処理区および無処理区試料は、試験区の境界部を除く試験区全体から鉢を用いて採取した。

採取した試料は、直ちに採取用カゴに入れた。そして場内の試料調製室まで運んだ。

(2) 採取後の調製・梱包方法 試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱粒・脱すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

果実を個別に包装紙で包んだ後、ダンボール箱に入れ梱包した。 破損防止のためダンボール箱の底にエアークッションを敷き、緩衝材として包装紙を使用した。

ダンボール箱の内側には試験区ラベルを、外側には梱包シールを貼り梱包した。

試験区ごと別々に梱包した。

(3) 試料送付先 分析機関: 一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、
輸送会社等

到着日を送付翌日に指定し、ヤマト運輸株式会社の冷蔵便で送付した。

(5) 備考 -

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬

平成24年秋冬作：ピーマン

- 平成24年.11/5 リゾレックス水和剤 1000倍 灌注,
- 11/5 カートホープ液剤 4000倍 2L/m² 灌注,
- 11/6, 29 アファム乳剤 2000倍, ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,
- 12/4, 11, 18 キノメチオネート(AKD-5192)フロアブル 2000倍 散布。

平成25年春夏作：メロン

- 平成25年.2/15 DC油剤 20L/10a,
- 5/20 ネットリゾエース粒剤 20kg/10a,
- 5/28 ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,
- 6/6 カートホープ液剤 4000倍 灌注,
- 6/24, 7/1, 8, 15, 22, 29 テーク水和剤 600倍 散布,
- 6/26 モレスタン水和剤 3000倍, カンタストライフロアブル 1000倍, ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,
- 7/1, 8, 15, 22, 29, 8/5 サブロール乳剤 2000倍 散布,
- 7/8, 15, 22, 29 カスケード乳剤 2000倍 散布,
- 7/8, 15, 22, 29 アタフロン乳剤 2000倍 散布,
- 7/8, 15, 22, 29, 8/5 オリオン水和剤 1000倍 散布,
- 7/8, 15, 22, 29, 8/5 プロボース顆粒水和剤 1000倍 散布,
- 7/15, 22, 29, 8/5 ロブテール水和剤 1000倍 散布,
- 7/15, 22, 29, 8/5 トレボン乳剤 1000倍 散布,
- 7/15, 22, 29, 8/5 アニキ乳剤 2000倍 散布,
- 7/15, 22, 29, 8/5 チェス顆粒水和剤 4000倍 散布,
- 7/15, 22, 29, 8/5 ライメイフロアブル 2000倍 散布,
- 7/22, 29, 8/5 ストロビーフロアブル 2000倍 散布,
- 7/22, 29, 8/5 バリアード顆粒水和剤 2000倍 散布,
- 7/29, 8/5 フェニックス顆粒水和剤 2000倍 散布,
- 8/5 サイロン乳剤 2500倍 散布,
- 8/5 スターマイトフロアブル 2000倍 散布。

平成25年秋冬作：メロン

- 平成25年.8/28 DC油剤 20L/10a,
- 10/4 プレバソフロアブル5 2000倍, ヘルカートフロアブル 1000倍, アトマイヤーフロアブル 4000倍 散布,
- 10/29 アファム乳剤 2000倍, ヘルカート水和剤 1000倍, アトマイヤー顆粒水和剤 10000倍 散布。

9. 被験物質以外に使用した農薬

平成25年.11/22 モスビランシエット 50g/400m²,

- 11/29 カンタストライフロアブル 1000倍, アトマイヤーフロアブル 4000倍, プレオフロアブル 1000倍 散布。

気象表

観測地点および試料調製場所：高知県香南市野市町深淵 日本植物防疫協会 高知試験場

気温：平均気温 (1 時間毎)

降水量：日界 _____ 時

記号；○：薬剤処理日
△：試料採取日

(25年)

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
11	気温 (施設内温度)																		21.6	21.5	22.0	21.4	21.5	21.8	21.7	18.8	21.1	20.7	19.7	21.0	21.0	
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取																			○							○					
	区記号 (試料番号)																			B							A, B					
12	気温 (施設内温度)	20.9	21.4	21.4	20.3	21.5	20.6	20.7	21.4	20.2	18.6	17.4	15.3	18.0	18.8	18.1	17.8															
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取		○								○	△		△				△														
	区記号 (試料番号)		A, B								A, B	A-1, B-1, C		A-2, B-2				A-3, B-3														
	気温 (施設内温度)																															
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取																															
	区記号 (試料番号)																															
	気温 (施設内温度)																															
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取																															
	区記号 (試料番号)																															
	気温 (施設内温度)																															
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取																															
	区記号 (試料番号)																															

薬剤処理日 (ガス抜き等を含む)、試料採取日等を記号で記入する。

また薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号 (試験区ラベルと同様の番号) を当該欄へ記入する。

施設内気温測定には、テークガー (株式会社 ティアンドティ おんどとり TR-71Ui) を使用した。

写真1. 11月18日処理時の果実の大きさ



写真2. 11月25日処理時の果実の大きさ



写真3. 12月2日処理時の果実の大きさ



写真4. 12月9日処理時の果実の大きさ



写真5. 12月10日採取試料の果実の大きさ



写真6. 12月12日採取試料の果実の大きさ



写真7. 12月16日採取試料の果実の大きさ



平成25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 25年11月 ~ 25年12月)

1. 被験物質 (処理区A)

- (1) 一般名・剤型 ①ルフェスロン・エマメクチン安息香酸塩(アファムエクスラ顆粒水和剤),
②アプロフェンシオン・フェンピロキシメート(アプロードエスフロアブル), ③フルシクソニル(セイブアフロアブル20)。
- (2) 有効成分名及び成分含有率 ①ルフェスロン 2.5%・エマメクチン安息香酸塩 0.70%,
②アプロフェンシオン 20.0%・フェンピロキシメート 4.0%, ③フルシクソニル 20.0%。
- (3) 被験物質のLot No. ①SIK2K21014.TA3, ②C3F09, ③DAA067。

被験物質 (処理区B)

- (1) 一般名・剤型 ④フェナリモル(ルビゲン水和剤), ⑤アゾキシストロピン(アミスター20フロアブル),
⑥ミクロブタニル(アリア水和剤)。
- (2) 有効成分名及び成分含有率 ④フェナリモル 12.0%, ⑤アゾキシストロピン 20.0%,
⑥ミクロブタニル 10.0%。
- (3) 被験物質のLot No. ④I0TBI007, ⑤PAB618, ⑥S2J35。

2. 農作物名 メロン (ノーネット) 品種名 ホームランスター改良系

3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会 高知試験場

試験圃場所在地 高知県香南市野市町深淵本田1211

4. 試験責任者氏名 松村 栄一, 内藤 寛, 奴田原 誠克, 森 克彦, 飯干 浩美, 中村 達都, 川北 充彦, 谷山 頼清。

5. 土性 砂土・砂壤土 (壤土) 壇壤土・埴土・軽埴土 (○を付す) 減水深 - cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

7. 栽培概要 播種期・移植期・施肥の種類・量・時期・樹齢・栽植密度 (畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、 被覆資材 (茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トシ栽培の被覆時期を記載する

露地・施設の別 施設栽培 有袋・無袋の別 -

播種: 平成25年9月6日, 定植: 10月1日, 畝幅: 280cm, 株間: 40cm, 1条植2本仕立て,

約900株/10a, マルチ栽培, 加温栽培, 施肥: 平成25年8月22日 ケントップ 1500kg/10a,

苦土石灰 100kg/10a, 追肥: 11月2日 くみあい液肥1号(12-5-7) 42kg/10a,

その他管理は慣行に従った。

人工交配: 10月23日~11月7日。

収穫期間 (適期): 平成25年12月中旬。

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージ を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

10. 試験区

(1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A, B: 各28.0㎡, 25株

無処理区C: 11.2㎡, 10株

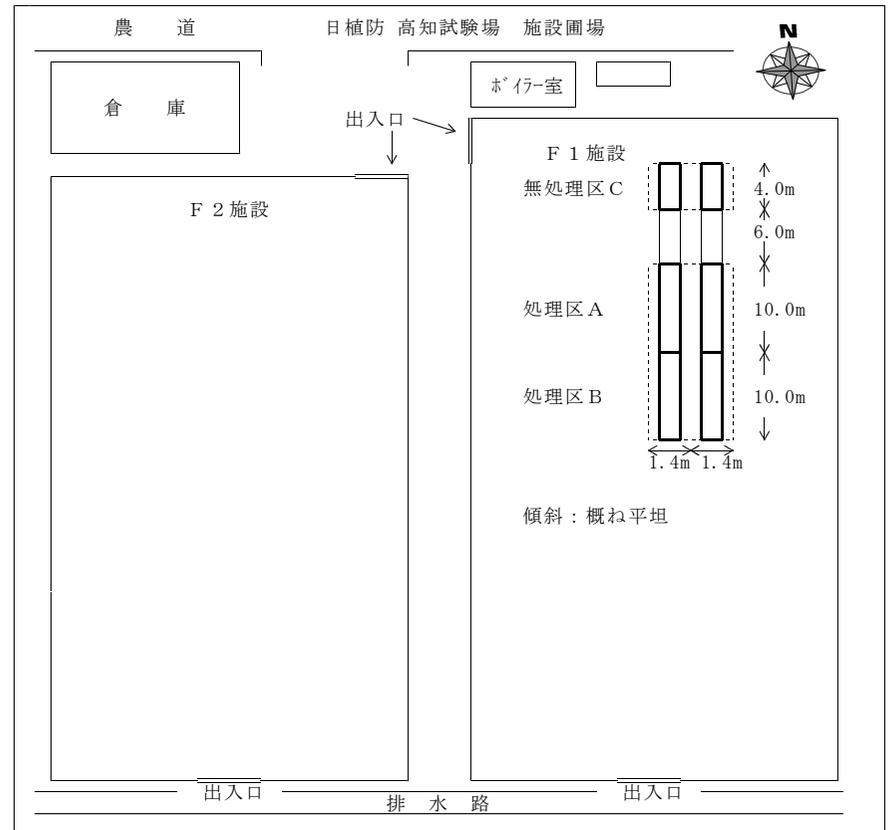
(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 面積: 986㎡, 容積: 2909m³, 高さ: 3.9m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区との距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



1 1. 処理方法 (下のA~G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区分 処理月日	A 区	B 区	C 区	D 区	E 区	処 理 濃 度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)
							1 0 a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
H25年11月25日	②, ③	/	無処理			②1000倍, ③1000倍	279 L	②7.8mL, ③7.8mL /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
12月2日	①, ②, ③	/				①1000倍, ②1000倍, ③1000倍	279 L	①7.8g, ②7.8mL, ③7.8mL /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
12月9日	①, ②, ③	/				①1000倍, ②1000倍, ③1000倍	279 L	①7.8g, ②7.8mL, ③7.8mL /7.8L/28.0m ²	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	①アファームエクト7顆粒水和剤 ②アプロートエースフロアブル ③セヒアフロアブル20									
月 日										
H25年11月18日	/	④, ⑤	無処理			④10000倍, ⑤2000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
11月25日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL, ⑥1.3g /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
12月2日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL, ⑥1.3g /7.8L/28.0m ²	成熟期	茎葉散布
12月9日	/	④, ⑤, ⑥				④10000倍, ⑤2000倍, ⑥6000倍	279 L	④0.78g, ⑤3.9mL, ⑥1.3g /7.8L/28.0m ²	収穫期	茎葉散布
月 日										
月 日	④ルビゲン水和剤 ⑤アミスター20フロアブル ⑥テラー水和剤									
月 日										
月 日										

区分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具 (機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況
		土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する
H25年11月18日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; B区: 14:10 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
11月25日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 14:45, B区: 14:25 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 曇
12月2日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 12:00, B区: 11:45 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 晴れ
12月9日	背負式バッテリー噴霧機 (丸山製作所 MSB111-A) にキョウカクコンノズル1頭口を装着し均一に散布。		処理開始時刻; A区: 14:40, B区: 14:10 処理時の天候: 晴れ 当日の天候: 曇
月 日			
月 日			

(1) 展着剤 使用せず。 使用した区番号 ー 展着剤名 ー 濃度または量 ー

(2) 備考 ー

1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式)に記入したものを記載する)

区分 採取月日	A区 試料番号	B区 試料番号	C区 試料番号	D区 試料番号	E区 試料番号	F区 試料番号	G区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
H25. 12月10日	A-1	B-1	C (無処理)					採取 A, B; 10:45 ~ 11:00 C; 9:40 ~ 9:50 天候: 晴れ	C → B → A	A区: 6個 (7.2kg) B区: 6個 (7.1kg) × 1分析 C区: 6個 (7.9kg)	12月10日
12月12日	A-2	B-2						採取 A, B; 10:25 ~ 10:40 天候: 晴れ	B → A	A区: 6個 (7.2kg) B区: 6個 (6.6kg) × 1分析	12月12日
12月16日	A-3	B-3						採取 A, B; 11:00 ~ 11:15 天候: 曇	B → A	A区: 6個 (7.4kg) B区: 6個 (7.1kg) × 1分析	12月16日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日
月 日										各区 以上 × 分析	月 日

区分 採取月日	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
H25. 12月10日	1. 試料の大きさは (やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
12月12日	1. 試料の大きさは (やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
12月16日	1. 試料の大きさは (やや大きい <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは (やや大きい <input type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い <input type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは (やや大きい <input type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い <input type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは (やや大きい <input type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は (やや早い <input type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具(機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

処理区および無処理区試料は、試験区の境界部を除く試験区全体から鉢を用いて採取した。

採取した試料は、直ちに採取用カゴに入れた。そして場内の試料調製室まで運んだ。

(2) 採取後の調製・梱包方法 試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱粒・脱すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

果実を個別に包装紙で包んだ後、包装紙を敷いたダンボール箱に並べて入れ梱包した。

緩衝材として包装紙を使用した。ダンボール箱の内側には試験区ラベルを、外側には梱包シールを貼り付けた。

試験区ごと別々に梱包した。

(3) 試料送付先 分析機関: 一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、
輸送会社等

到着日を送付翌日に指定し、ヤマト運輸株式会社の冷蔵便で送付した。

(5) 備考 -

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬

平成24年秋冬作：ピーマン

平成24年.11/5 リゾレックス水和剤 1000倍 灌注,
11/5 カートホープ液剤 4000倍 2L/m² 灌注,
11/6 アファム乳剤 2000倍, ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,
11/29 アファム乳剤 2000倍, ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,
12/4, 11, 18 キマチオネット(AKD-5192)フロアブル 2000倍 散布。

平成25年春夏作：メロン

平成25年.2/15 DC油剤 20L/10a,
5/20 ネットリンエース粒剤 20kg/10a,
5/28 ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,
6/6 カートホープ液剤 4000倍 灌注,
6/24, 7/1, 8, 15, 22, 29 テーク水和剤 600倍 散布,
6/26 モレスタン水和剤 3000倍, カンタストライフロアブル 1000倍, ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,
7/1, 8, 15, 22, 29, 8/5 サブロール乳剤 2000倍 散布,
7/8, 15, 22, 29 カスケード乳剤 2000倍 散布,
7/8, 15, 22, 29 アタフロン乳剤 2000倍 散布,
7/8, 15, 22, 29, 8/5 オリオン水和剤 1000倍 散布,
7/8, 15, 22, 29, 8/5 プロボース顆粒水和剤 1000倍 散布,
7/15, 22, 29, 8/5 ロブテール水和剤 1000倍 散布,
7/15, 22, 29, 8/5 トレボン乳剤 1000倍 散布,
7/15, 22, 29, 8/5 アニキ乳剤 2000倍 散布,
7/15, 22, 29, 8/5 チェス顆粒水和剤 4000倍 散布,
7/15, 22, 29, 8/5 ライメイフロアブル 2000倍 散布,
7/22, 29, 8/5 ストロビフロアブル 2000倍 散布,
7/22, 29, 8/5 バリアード顆粒水和剤 2000倍 散布,
7/29, 8/5 フェニックス顆粒水和剤 2000倍 散布,
8/5 サイロン乳剤 2500倍 散布,
8/5 スターマイトフロアブル 2000倍 散布。

平成25年秋冬作：メロン

平成25年.8/28 DC油剤 20L/10a,
9/27 (育苗期) アファム乳剤 1000倍, ヘスタート水溶剤 1000倍 散布,
10/23~11/7 (毎日) ジベレリン 100ppm, トマトロン 50倍 処理,
10/30 モレスタン水和剤 3000倍, アトマイヤーフロアブル 4000倍, トルネットフロアブル 2000倍 散布。

9. 被験物質以外に使用した農薬

平成25年.11/22 モスビランシエット 50g/400m²,
11/29 カンタストライフロアブル 1000倍, アトマイヤーフロアブル 4000倍, プレオフロアブル 1000倍 散布。

気象表

観測地点および試料調製場所：高知県香南市野市町深淵 日本植物防疫協会 高知試験場

気温：平均気温 (1 時間毎)

降水量：日界 _____ 時

記号；○：薬剤処理日
△：試料採取日

(25年)

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					
11	気温 (施設内温度)																		21.6	21.5	22.0	21.4	21.5	21.8	21.7	18.8	21.1	20.7	19.7	21.0	21.0						
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取																		○								○										
	区記号 (試料番号)																		B								A, B										
12	気温 (施設内温度)	20.9	21.4	21.4	20.3	21.5	20.6	20.7	21.4	20.2	18.6	17.4	15.3	18.0	18.8	18.1	17.8																				
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取		○								○	△		△				△																			
	区記号 (試料番号)		A, B								A, B	A-1, B-1, C		A-2, B-2				A-3, B-3																			
	気温 (施設内温度)																																				
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取																																				
	区記号 (試料番号)																																				
	気温 (施設内温度)																																				
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取																																				
	区記号 (試料番号)																																				
	気温 (施設内温度)																																				
	降水量																																				
	薬剤処理/試料採取																																				
	区記号 (試料番号)																																				

薬剤処理日 (ガス抜き等を含む)、試料採取日等を記号で記入する。

また薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号 (試験区ラベルと同様の番号) を当該欄へ記入する。

施設内気温測定には、テラコガー (株式会社 ティアンドティ おんどとりTR-71Ui) を使用した。

写真1. 11月18日処理時の果実の大きさ



写真2. 11月25日処理時の果実の大きさ



写真3. 12月2日処理時の果実の大きさ



写真4. 12月9日処理時の果実の大きさ



写真5. 12月10日採取試料の果実の大きさ



写真6. 12月12日採取試料の果実の大きさ

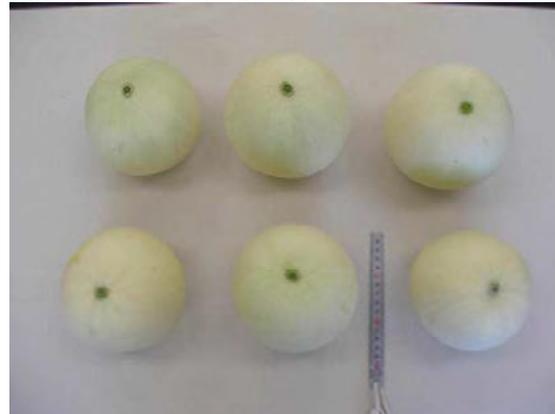


写真7. 12月16日採取試料の果実の大きさ



平成 25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 25年 11月 ~ 25年 12月)

1. 被験物質

(1) 一般名・剤型	①エマメクチン安息香酸塩・ルフェヌロン（アファームエクセラ）顆粒水和剤, ②フェンピロキシメート・ブプロフェジン（アプロードエース）フロアブル, ③フルジオキソニル（セイビア）フロアブル20, ④フェナリモル（ルビゲン）水和剤, ⑤アゾキシストロピン（アミスター20）フロアブル、⑥ミクロブタニル（ラリー）水和剤
(2) 有効成分名及び成分含有率	①エマメクチン安息香酸塩 0.70%・ルフェヌロン 2.5%, ②フェンピロキシメート 4.0%・ブプロフェジン 20.0%, ③フルジオキソニル 20.0%, ④フェナリモル 12.0%, ⑤アゾキシストロピン 20.0%、⑥ミクロブタニル 10.0%
(3) 被験物質の Lot No.	①15.10 S1K2K21014.TA3, ②16.10 C3F09, ③15.10 DAA067, ④17.10 TBI007, ⑤16.10 PAB618, ⑥17.10 S2J35

2. 農作物名	ネットメロン	品種名	アールスセイヌ秋冬II
3. 試験実施機関名	一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場		
試験圃場所在地	宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 試験場内施設（H-3）		
4. 試験責任者氏名	井園佳文 佐藤典敬 櫻井昭寿 日高正浩 舟木勇樹 福元義人 和田倉誠也		

5. 土性	壤土	減水深	cm/日
-------	----	-----	------

6. 過去1年間に作付けした作物及び使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

7. 栽培概要

播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度（畝間・株間）・株数（/10a）、水管理等、
被覆資材（茶は寒れい紗番号）、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トネ栽培の被覆時期を記載する

<施設> 無袋

播種：25年9月5日 定植：9月26日 畝間：1.35m 株間：0.45m 1条植主枝1本仕立て

栽植本数（10aあたり）：1,650株 透明ポリエチレンフィルムマルチ 圃場は概ね平坦

施肥（10aあたり）：<元肥>9月12日 堆肥 3000kg 苦土石灰 140kg 有機配合888号（8-8-8）100kg

CDU複合燐加安特S222（12-12-12）67kg

<追肥>無し

収穫期間（適期）：12月上旬～

8. 生育ステージ

試験計画書に指定された生育ステージ
を記入下さい

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

11月15日 ダコニールくん煙剤 50g/320㎡

11月23日 ジマンダイセン水和剤 500倍 ダコニール1000 1000倍 コルト顆粒水和剤 3000倍

モレスタン水和剤 2000倍

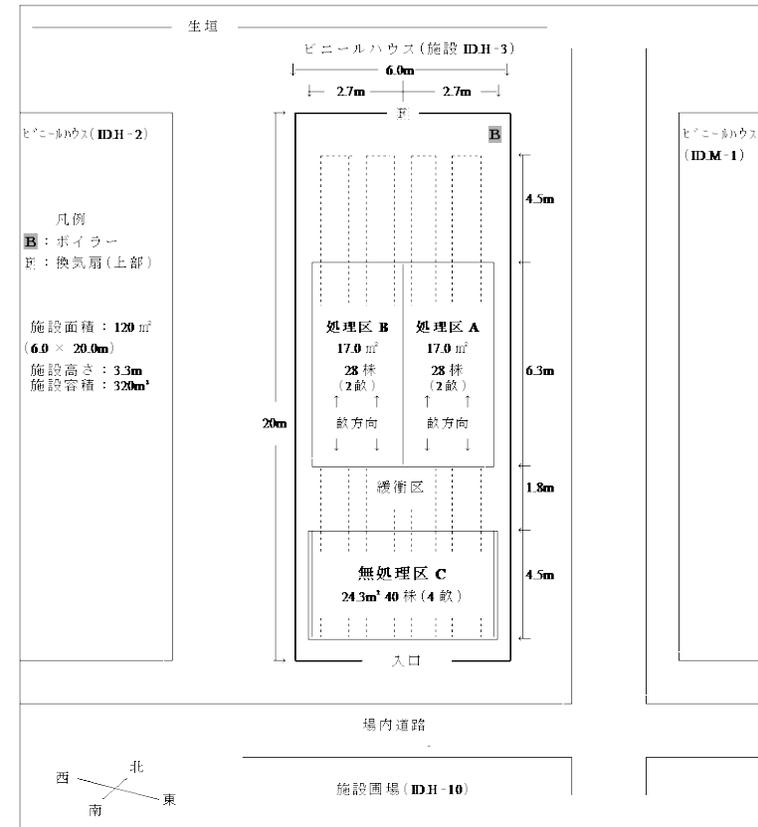
10. 試験区

(1) 1試験区の面積および本(株)数	処理区A：17.0㎡（28株）、処理区B：17.0㎡（28株）、 無処理区C：24.3㎡（40株）
(2) 施設の場合、面積・容積・高さ	面積：120㎡（6.0m×20.0m）、容積：320㎡、最大高：3.3m
(3) 試験区の配置図	(試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は吸水口および排水溝を記入して下さい。



11. 処理方法（下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する）

処理月日	区分	A区	B区	C区	処理濃度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法(概略)
						10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
11月 13日			④⑤	無処理	①アフームエクセラ顆粒水和剤 1000倍 ②アブロードエースフロアブル 1000倍 ③セイビアーフロアブル20 1000倍 ④ルビゲン水和剤 10000倍 ⑤アミスター20フロアブル 2000倍 ⑥ラリー水和剤 6000倍	2350	④0.6g⑤3.0ml/6.00調製液を作製 17.0nfに4.00を散布した	果実肥大期	茎葉散布
11月 20日	②③		④⑤⑥			2350	②6.0ml③6.0ml/6.00調製液を作製 17.0nfに4.00を散布した	果実肥大期	茎葉散布
11月 27日	①②③		④⑤⑥			2350	④0.6g⑤3.0ml⑥1.0g/6.00調製液を作製 17.0nfに4.00を散布した	果実肥大期	茎葉散布
12月 4日	①②③		④⑤⑥			2350	①6.0g②6.0ml③6.0ml/6.00調製液を作製 17.0nfに4.00を散布した	収穫期	茎葉散布
			④⑤⑥			2350	④0.6g⑤3.0ml⑥1.0g/6.00調製液を作製 17.0nfに4.00を散布した		

処理月日	区分	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具(機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、 土壌混和時の深度、土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
				11月 13日	
11月 20日		背負式バッテリー噴霧機（丸山製作所 MSB1500Li、噴霧圧力：4）に 1頭口コーンノズル（丸山製作所 狭角コーンノズル）を装着し、作物 全体に散布した。		処理時刻 B区AM9:05～、A区 AM9:40～ 天候:晴れ 無風 処理後の天気は晴れ	
11月 27日			処理時刻 B区PM0:50～、A区 PM1:27～ 天候:晴れ 無風 処理後の天気は晴れ		
12月 4日			処理時刻 B区PM3:05～、A区 PM3:28～ 天候:晴れ 無風 処理後の天気は晴れ		

(1) 展着剤 使用せず 使用した区番号 — 展着剤名 — 濃度または量 —

(2) 備考

12. 試料採取（試料番号は試料送付時に「送付カード」に記入したものを記載する）

採取月日	区分			試料採取時刻と天候	試料採取順（区番号順）	試料送付量	試料送付月日
	A区 試料番号	B区 試料番号	C区 試料番号				
12月 5日	A-1	B-1	C	AM8:30~8:42, 8:55~9:09, 9:25~9:39 晴れ	C→A→B	各区 5kgかつ6個以上	12月 5日
12月 7日	A-2	B-2		AM8:55~9:08, 9:25~9:39 晴れ	A→B	各区 5kgかつ6個以上	12月 7日
12月 11日	A-3	B-3		AM9:26~9:43, 11:16~11:30 晴れ	A→B	各区 5kgかつ6個以上	12月 11日

採取月日	区分	送付試料について（該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する）
12月 5日		1. 試料の大きさは（ 通常 ） 2. 熟期は（ 通常 ） 3. その他（ ） 4. 原因
12月 7日		1. 試料の大きさは（ 通常 ） 2. 熟期は（ 通常 ） 3. その他（ ） 4. 原因
12月 11日		1. 試料の大きさは（ 通常 ） 2. 熟期は（ 通常 ） 3. その他（ ） 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具（機械）、採取方法の詳細、採取後乾燥のための輸送方法を記載
 試験区の南北の境界部を除き、偏りがないう区全体から市場出荷可能なサイズの試料を選び、ハサミを用いて採取した。

(2) 採取後の調製・梱包方法
 試料を試料調製室まで運び梱包した。試料を個別に包装紙で包み、エアパッキン（小）で包んだ後、ポリ袋へ入れた。底にエアパッキン（大）を敷き詰めたダンボール箱にそれを入れ、隙間を丸めた包装紙で充填した。箱の内側に試験区ラベルを外側に梱包シールを貼り付けした。なお、梱包資材は未使用のものを用い、試験区毎に別梱包とした。

(3) 試料送付先 分析場所：一般財団法人残留農薬研究所
 (4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、輸送会社等
 ヤマト運輸株式会社の冷蔵便で、到着を翌々日の午前中に指定し送付した。

(5) 備考

気象表

観測地点および試料調製場所 観測地点：宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場内 当該試験施設（H-3）

記号 ○：薬剤処理日

△：試料採取日

気温：平均気温（ 1 時間毎）

降水量：日界 — 時

（25年）

測定時刻 — 時

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
11	気温（施設内温度）	23.9	21.3	21.9	22.9	23.4	23.8	25.0	24.5	24.3	21.8	24.1	23.8	23.2	22.7	22.5	22.7	21.2	21.0	22.0	21.1	21.4	21.6	21.6	22.0	20.3	21.4	20.5	20.4	21.3	20.9	
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取													○							○							○				
	区記号（試料番号）													B							A, B							A, B				
12	気温（施設内温度）	20.6	21.1	20.9	19.2	16.6	15.3	17.2	17.3	14.2	17.4	15.1	16.0	15.7	15.8	16.0	15.4	10.7	10.9	16.0	15.3	15.8	16.5	16.1								
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取				○	△		△				△																				
	区記号（試料番号）				A, B	C, A-1B-1		A-2, B-2				A-3, B-3																				

薬剤処理日（ガス抜き等を含む）、試料採取日等を記号で記入する。なお施設試験の場合は該当する記号を「施設内温度」欄へ、露地試験の場合には「気温」欄へそれぞれ記入する。

また、薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号（送付カードと同様の番号）を当該欄へ記入する。

観測機器 気温：T&DおんどとりTR-71Ui

別紙. 過去1年間に作付けした作物及び使用した農薬

作物名	農薬名	年	月	日	濃度又は処理量/処理方法
ミニトマト	コルト顆粒水和剤	12	10	15	4000倍
	アフーム乳剤	12	10	15	1000倍
	サンマイトフロアブル	12	11	2	1000倍
	ダコニール1000	12	11	2	1000倍
	サンマイトフロアブル	12	11	14	1000倍
	ダコニール1000	12	11	14	1000倍
	スミレックスくん煙顆粒	12	11	20	6g/100m ³
	ダコニールくん煙剤	12	11	27	40g/100m ³
	ウララくん煙剤	12	11	28	50g/400m ³
	スミレックスくん煙顆粒	12	11	29	6g/100m ³
	ウララくん煙剤	12	12	5	50g/400m ³
	ダコニールくん煙剤	12	12	6	40g/100m ³
	スミレックスくん煙顆粒	12	12	13	6g/100m ³
	ダコニールくん煙剤	12	12	26	40g/100m ³
	スミレックスくん煙顆粒	12	12	28	6g/100m ³
	ネクスターフロアブル	13	2	22	500倍, 1000倍
	ネクスターフロアブル	13	3	4	500倍, 1000倍
ミニトマト	ネマキック粒剤	13	4	11	20kg/10a, 定植前(当日)全面土壌混和
	コルト顆粒水和剤	13	4	22	4000倍
	ダコニール1000	13	4	22	1000倍
	ダコニール1000	13	5	6	1000倍
	スタークル顆粒水溶剤	13	5	6	2000倍
	ダコニールくん煙剤	13	5	18	40g/100m ³
	ネマキック液剤	13	5	20	4000倍, 20000/10a畝面上灌注
	ダコニールくん煙剤	13	6	8	40g/100m ³
	ダコニールくん煙剤	13	6	21	40g/100m ³

作物名	農薬名	年	月	日	濃度又は処理量/処理方法
-	テロン	13	7	29	300/10a, 全面土壌処理
メロン (現作・ 育苗期)	ダコニール1000	13	9	5	1000倍, 10/箱, 育苗箱灌注
	ダコニール1000	13	9	24	1000倍
	ジマンダイセン水和剤	13	9	24	400倍
	スタークル粒剤	13	9	24	1g/ポット株元処理
メロン (現作)	ダコニール1000	13	10	10	1000倍
	ジマンダイセン水和剤	13	10	10	500倍
	フェニックス顆粒水和剤	13	10	10	2000倍
	ダコニール1000	13	11	2	1000倍
	ジマンダイセン水和剤	13	11	2	500倍
	スミレックス水和剤	13	11	2	1000倍
	アフーム乳剤	13	11	2	2000倍

調理加工 ネットメロン

処理時の果実の状況



2013/11/13



2013/11/20



2013/11/27

調理加工 ネットメロン

処理時の果実の状況



2013/12/04

調理加工 ネットメロン

採取時の果実の状況 2013/12/05



無処理区C



処理区A-1



処理区B-1

調理加工 ネットメロン

採取時の果実の状況 2013/12/07



処理区A-2



処理区B-2

調理加工 ネットメロン

採取時の果実の状況 2013/12/11



処理区A - 3



処理区B - 3



平成 25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 25年 11月 ~ 25年 12月)

1. 被験物質

(1) 一般名・剤型 ①エマメクチン安息香酸塩・ルフェヌロン（アファームエクセラ）顆粒水和剤, ②フェンピロキシメート・ブプロフェジン（アプロードエース）フロアブル, ③フルジオキシニル（セイビアー）フロアブル20, ④フェナリモル（ルビゲン）水和剤, ⑤アゾキシストロピン（アミスター20）フロアブル、⑥ミクロブタニル（ラリー）水和剤

(2) 有効成分名及び成分含有率 ①エマメクチン安息香酸塩 0.70%・ルフェヌロン 5.0%, ②フェンピロキシメート 4.0%・ブプロフェジン 20.0%, ③フルジオキシニル 20.0%, ④フェナリモル 12.0%, ⑤アゾキシストロピン 20.0%、⑥ミクロブタニル 10.0%

(3) 被験物質の Lot No. ①15.10 S1K2K21014.TA3, ②16.10 C3F09, ③15.10 DAA067, ④17.10 TBI007, ⑤16.10 PAB618, ⑥17.10 S2J35

2. 農作物名 ノーネットメロン 品種名 ホームランスター改良型

3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場

試験圃場所在地 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 試験場内施設（H-4）

4. 試験責任者氏名 井園佳文 佐藤典敬 櫻井昭寿 日高正浩 舟木勇樹

福元義人 和田倉誠也

5. 土性 砂壤土 減水深 cm/日

6. 過去1年間に作付けた作物及び使用した農薬 (別紙としても構いません)

別紙に記載。

7. 栽培概要 播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度（畝間・株間）・株数（/10a）、水管理等、被覆資材（茶は寒れい紗番号）、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載する

<施設> 無袋

栽植本数（10aあたり）：900株 透明ポリエチレンフィルムマルチ 圃場は概ね平坦

施肥（10aあたり）：<元肥>9月12日 堆肥 3000kg 苦土石灰 140kg 有機配合888号（8-8-8）75kg

CDU複合燐加安特S222（12-12-12）50kg

<追肥>無し

収穫期間（適期）：12月上旬～

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージを記入下さい

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

11月15日 モレスタン水和剤 3000倍 ライメイフロアブル 2000倍 ダコニール1000 1000倍 アファーム乳剤 2000倍

11月29日 ジマンダイセン水和剤 600倍 ダコニール1000 1000倍 アファーム乳剤 2000倍

コルト顆粒水和剤 4000倍

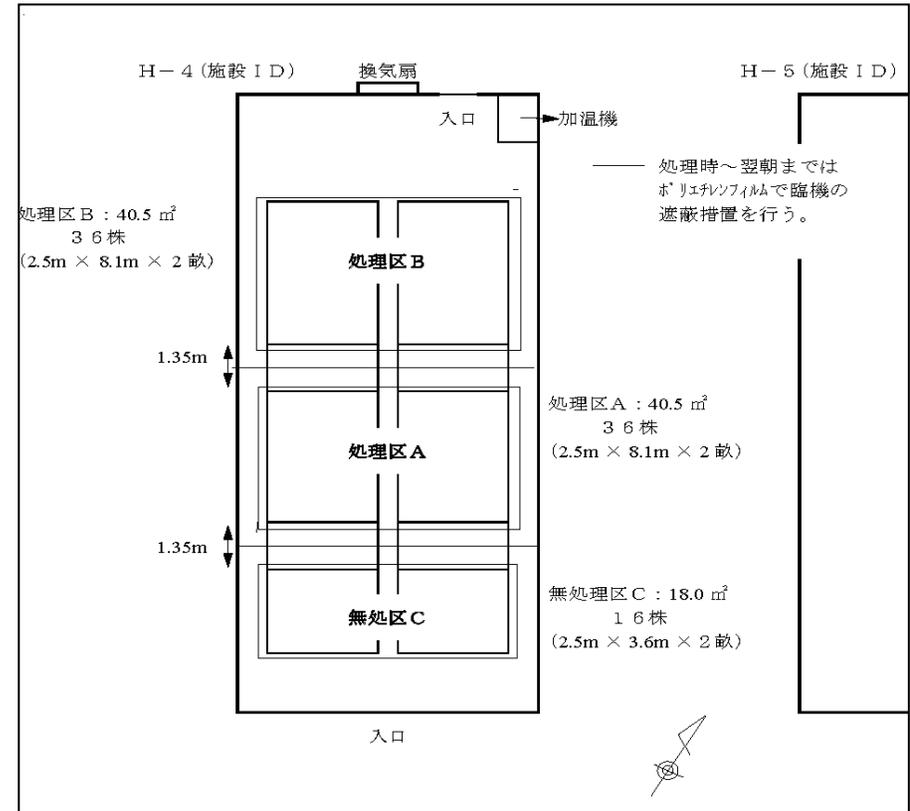
10. 試験区

(1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A：40.5㎡（36株）、処理区B：40.5㎡（36株）、無処理区C：18.0㎡（16株）

(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 面積：150㎡（6.0m×25.0m）、容積：450㎡、最大高：3.3m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。
イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。
ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は吸水口および排水溝を記入して下さい。



11. 処理方法（下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する）

処理月日	区分	A区	B区	C区	処理濃度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法(概略)
						10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
11月 13日			④⑤	無処理	①アフームエクセラ顆粒水和剤 1000倍 ②アブロードエースフロアブル 1000倍 ③セイビアーフロアブル20 1000倍 ④ルビゲン水和剤 10000倍 ⑤アミスター20フロアブル 2000倍 ⑥ラリー水和剤 6000倍	2400	④1.20g⑤6.0ml/12.00調製液を作製 40.5mfに9.70を散布した	生育期	茎葉散布
11月 20日	②③		④⑤⑥			2400	②12.0ml③12.0ml/12.00調製液を作製 40.5mfに9.70を散布した	生育期	茎葉散布
11月 27日	①②③		④⑤⑥			2400	④1.20g⑤6.0ml⑥2.00g/12.00調製液を作製 40.5mfに9.70を散布した	生育期	茎葉散布
12月 4日	①②③		④⑤⑥			2400	①12.00g②12.0ml③12.0ml/12.00調製液を作製 40.5mfに9.70を散布した	収穫初期	茎葉散布
						2400	④1.20g⑤6.0ml⑥2.00g/12.00調製液を作製 40.5mfに9.70を散布した		

処理月日	区分	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具(機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、 土壌混和時の深度、土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
				11月 13日	
11月 20日		背負式バッテリー噴霧機（丸山製作所 MSB1500Li、噴霧圧力：4）に 1頭口コーンノズル（丸山製作所 狭角コーンノズル）を装着し、作物 全体に散布した。		処理時刻 A区AM11:12～、B区 AM11:50～ 天候:晴れ 無風 処理後の天気は晴れ	
11月 27日			処理時刻 A区PM3:10～、B区 PM3:55～ 天候:曇り 無風 処理後の天気は曇り		
12月 4日			処理時刻 A区PM1:15～、B区 PM2:00～ 天候:晴れ 無風 処理後の天気は晴れ		

(1) 展着剤 使用せず 使用した区番号 — 展着剤名 — 濃度または量 —

(2) 備考

12. 試料採取（試料番号は試料送付時に「送付カード」に記入したものを記載する）

区分 採取月日	A区 試料番号	B区 試料番号	C区 試料番号	D区 試料番号	E区 試料番号	F区 試料番号	G区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順（区番号順）	試料送付量	試料送付月日
12月05日	A-1	B-1	C					AM10:25~30、11:03~08、11:29~36 晴れ	C→A→B	各区5kgかつ6個以上×1分析	12月05日
12月07日	A-2	B-2						AM9:34~40、10:00~06 晴れ	A→B	各区5kgかつ6個以上×1分析	12月07日
12月11日	A-3	B-3						AM10:35~41、11:00~05 晴れ	A→B	各区5kgかつ6個以上×1分析	12月11日

区分 採取月日	送付試料について（該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する）
12月05日	1. 試料の大きさは（ 通常 ） 2. 熟期は（ 通常 ） 3. その他（ ） 4. 原因
12月07日	1. 試料の大きさは（ 通常 ） 2. 熟期は（ 通常 ） 3. その他（ ） 4. 原因
12月11日	1. 試料の大きさは（ 通常 ） 2. 熟期は（ 通常 ） 3. その他（ ） 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具（機械）、採取方法の詳細、採取後乾燥のための輸送方法を記載

試験区南北の境界部を除き、試験区全体から試料に適するものを任意に選び、採取専用のハサミを用いて採取しカゴに入れた。（ゴム手袋着用）
 なお、ゴム手袋・ハサミ・カゴは試験区毎に交換した。

(2) 採取後の調製・梱包方法

採取直後、果頂部に残っていた花卉をゴム手袋をした手で取り除き、カゴの中に入れた。梱包は試験施設入り口付近に停めた車両荷室で行い、ダンボール箱の底敷きにエアキャップ（大）を敷き、その上に包装資材（ホースペーパー）を敷いて試料を入れた。試料は個別にホースペーパー及びエアキャップ（小）で包み込み、二重にしたビニール袋に入れて箱詰めし、隙間にはホースペーパーを詰めた。箱の内側に試験区ラベルを、外側に梱包シールを貼り付けし、試験区毎に別々に梱包した。なお、梱包資材は全て新品のものを使用した。

(3) 試料送付先 分析機関： 一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定 試料は下記の期日の午前中到着指定で、ヤマト運輸（株式会社）にて送付した。
 試料C, A-1, B-1 (12/05送付)→12/07到着指定 試料A-2, B-2 (12/07送付)→12/09到着指定 試料A-3, B-3 (12/11送付)→12/13到着指定

(5) 備考

気象表

観測地点および試料調製場所 観測地点：宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 一般社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場内 当該試験施設（H-4）

記号； ○：薬剤処理日

△：試料採取日

気温：平均気温（ 1 時間毎）

降水量：日界 一 時

（ 25 年 ）

測定時刻 午前 一 時

観測機器：T&DおんどとりTR-71Ui

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
11	気温（施設内温度）											22.2	21.7	21.2	21.5	21.4	22.2	20.9	21.0	21.9	22.5	21.5	21.8	21.9	22.5	20.0	21.4	20.4	20.7	21.4	21.5		
	降水量																																
	薬剤処理/試料採取														○							○							○				
	区記号（試料番号）														B							A、B							A、B				
12	気温（施設内温度）	20.3	21.0	20.8	20.9	21.6	19.7	22.1	21.9	18.5	21.5	20.3	21.6	20.5	21.3	21.2																	
	降水量																																
	薬剤処理/試料採取				○	△			△				△																				
	区記号（試料番号）				A、B	C、A-1、B-1			A-2、B-2				A-3、B-3																				
	気温（施設内温度）																																
	降水量																																
	薬剤処理/試料採取																																
	区記号（試料番号）																																
	気温（施設内温度）																																
	降水量																																
	薬剤処理/試料採取																																
	区記号（試料番号）																																
	気温（施設内温度）																																
	降水量																																
	薬剤処理/試料採取																																
	区記号（試料番号）																																
	気温（施設内温度）																																
	降水量																																
	薬剤処理/試料採取																																
	区記号（試料番号）																																

薬剤処理日（ガス抜き等を含む）、試料採取日等を記号で記入する。なお施設試験の場合は該当する記号を「施設内温度」欄へ、露地試験の場合には「気温」欄へそれぞれ記入する。

また、薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号（送付カードと同様の番号）を当該欄へ記入する。

別紙. 過去1年間に作付けした作物及び使用した農薬

作物名	農薬名	年	月	日	濃度又は処理量/処理方法
いちご	粘着くん液剤	12	10	11	100倍
	アファーム乳剤	12	10	19	1000倍
	モスピラン水溶剤	12	10	19	2000倍
	ジマンダイセン水和剤	12	10	19	600倍
	モレスタン水和剤	12	10	19	3000倍
	粘着くん液剤	12	11	8	100倍
	イオウフロアブル	12	11	21	500倍
	モスピラン水溶剤	12	11	21	2000倍
	カンタストライフロアブル	12	11	21	1000倍
	イシアホス(AKD-3088)液剤	12	12	3	4000倍, 2000 $\frac{\mu\text{g}}$ /10a, 畝全面灌注処理
	ガードホープ液剤	12	12	5	4000倍, 2 $\frac{\mu\text{g}}$ /m ² , 畝全面灌注処理
	粘着くん液剤	13	1	3	100倍
	粘着くん液剤	13	2	19	100倍
	粘着くん液剤	13	2	19	100倍
	KC-26837乳剤(新規)	13	2	26	500倍, 1000倍
	フルピカフロアブル	13	2	26	2000倍
	IKF-415WG(既知)	13	2	26	1000倍
	S-2200 40SC(新規)	13	2	26	2000倍
	スミレックス水和剤	13	2	26	2000倍
	ピクシオDF	13	2	26	2000倍
	フルピカフロアブル	13	3	4	2000倍
	アファーム乳剤	13	3	4	2000倍
	IKF-415WG(既知)	13	3	5	1000倍
	KC-26837乳剤(新規)	13	3	5	500倍, 1000倍
	フルピカフロアブル	13	3	5	2000倍
	スミレックス水和剤	13	3	5	2000倍
	S-2200 40SC(新規)	13	3	5	2000倍
	ピクシオDF	13	3	5	2000倍

作物名	農薬名	年	月	日	濃度又は処理量/処理方法
いちご	ピクシオDF	13	3	12	2000倍
	KC-26837乳剤(新規)	13	3	12	500倍, 1000倍
	スミレックス水和剤	13	3	12	2000倍
	フルピカフロアブル	13	3	12	2000倍
	S-2200 40SC(新規)	13	3	12	2000倍
	IKF-415WG(既知)	13	3	12	1000倍
	アファーム乳剤	13	3	13	2000倍
	アファーム乳剤	13	3	13	2000倍
	粘着くん液剤	13	3	13	100倍
	粘着くん液剤	13	3	13	100倍
	スミレックス水和剤	13	3	19	2000倍
	IKF-415WG(既知)	13	3	19	1000倍
	KC-26837乳剤(新規)	13	3	19	500倍, 1000倍
	フルピカフロアブル	13	3	19	2000倍
	S-2200 40SC(新規)	13	3	19	2000倍
	ピクシオDF	13	3	19	2000倍

別紙. 過去1年間に作付けした作物及び使用した農薬

作物名	農薬名	年	月	日	濃度又は処理量/処理方法
すいか	コルト顆粒水和剤	13	5	16	3000倍
	モレスタン水和剤	13	5	16	2000倍
	スミレックス水和剤	13	5	16	1000倍
	アディオン乳剤	13	5	20	2000倍
	オリオン水和剤	13	5	20	1000倍
	マネージDF	13	5	27	2000倍
	オリオン水和剤	13	5	27	1000倍
	テルスター水和剤	13	5	27	1000倍
	アディオン乳剤	13	5	27	2000倍
	コルト顆粒水和剤	13	5	29	4000倍
	スミレックス水和剤	13	5	29	1000倍
	ランマンフロアブル	13	5	29	1000倍
	ジマンダイセン水和剤	13	5	29	800倍
	イオウフロアブル	13	5	29	500倍
	マネージDF	13	6	3	2000倍
	テルスター水和剤	13	6	3	1000倍
	オリオン水和剤	13	6	3	1000倍
	アフェットフロアブル	13	6	3	2000倍
	アディオン乳剤	13	6	3	2000倍
	オリオン水和剤	13	6	10	1000倍
	ダニゲッターフロアブル	13	6	10	2000倍
	プレオフロアブル	13	6	10	1000倍
	マネージDF	13	6	10	2000倍
	アディオン乳剤	13	6	10	2000倍
	レーバースフロアブル	13	6	10	2000倍
	テルスター水和剤	13	6	10	1000倍
	アフェットフロアブル	13	6	10	2000倍
	オリオン水和剤	13	6	17	1000倍
	アフェットフロアブル	13	6	17	2000倍
	ピラニカEW	13	6	17	2000倍
	マネージDF	13	6	17	2000倍

作物名	農薬名	年	月	日	濃度又は処理量/処理方法
すいか	プレオフロアブル	13	6	17	1000倍
	テルスター水和剤	13	6	17	1000倍
	アディオン乳剤	13	6	17	2000倍
	ダニゲッターフロアブル	13	6	17	2000倍
	レーバースフロアブル	13	6	17	2000倍
	裸地	テロン	13	7	29
ノーネットメロン (育苗期・現作)	ダコニール1000	13	9	9	1000倍, 播種時1L/育苗箱灌注
	スタークル粒剤	13	9	24	1g/ポット株元処理
	ダコニール1000	13	9	24	1000倍
	ジマンダイセン水和剤	13	9	24	400倍
	フェニックス顆粒水和剤	13	10	7	4000倍
	ダコニール1000	13	10	7	1000倍
	ジマンダイセン水和剤	13	10	7	600倍
	モレスタン水和剤	13	10	19	3000倍
	スミレックス水和剤	13	10	19	2000倍
	ランマンフロアブル	13	10	19	1000倍
	コルト顆粒水和剤	13	10	19	4000倍
	イオウフロアブル	13	11	1	1000倍
	スミレックス水和剤	13	11	1	2000倍
	ダコニール1000	13	11	1	1000倍
	コルト顆粒水和剤	13	11	1	4000倍

V 処理時の果実写真

V-__

13/11/13 処理区B 1回目散布時



13/11/20 処理区A 1回目散布時 処理区B 2回目散布時



13/11/27 処理区A 2回目時散布 処理区B 3回目散布時



13/12/04 処理区A 3回目散布時 処理区B 4回目散布時



VII 試料採取時の果実写真

VII- _____

13/12/05 無処理区C



処理区A-1 処理1日後採取時



処理区B-1 処理1日後採取時



13/12/07 処理区A-2 処理3日後採取時



処理区B-2 処理3日後採取時



13/12/21 処理区A-3 処理7日後採取時



処理区B-3 処理7日後採取時



平成25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 25年9月 ~ 25年11月)

1. 被験物質

一般名(商品名)剤型・有効成分名・成分含有率及び被験物質の Lot No.

- ①ピリダベン(サンマイト)水和剤・ピリダベン:20.0% Lot No. 17. 10-OBK028
- ②フルベンジアミド(フェニックス)顆粒水和剤・フルベンジアミド:20.0% Lot No. 16. 10 SIL01
- ③クレソキシムメチル(ストロビー)ドライフロアブル・クレソキシムメチル50.0% Lot No. 16. 10 E3N02
- ④ジエトフェンカルブ・プロシミドン(スミブレンド)水和剤・プロシミドン:37.5% Lot No. 16. 10-HI22
- ⑤チオファネートメチル(トップジンM)水和剤・チオファネートメチル:70.0% Lot No. 15. 10 2306S
- ⑥ジノテフラン(スタークル)顆粒水溶剤・ジノテフラン:50% Lot No. 15. 10 12F50024

3. 試験実施機関名 一般社団法人日本植物防疫協会 茨城研究所

4. 試験責任者氏名 森田久孝, 森田泰充, 橋本龍治, 柑本俊樹, 小川和巳, 後藤直人,
宮川直也, 有波有紀, 小林照二

5. 土性 砂土・砂壤土 **壤土** 埴壤土・埴土 (○を付す) 減水深 cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬 (別紙としても構いません)

処理区Aのみ: アゼイオン乳剤:2000倍・平成23年9月30日, 10月8日, 15日, 22日, 29日, ベンレート水和剤:2000倍・9月30日, 10月8日, 15日, 22日, 29日, フロンサト水和剤:1000倍・10月8日, ロブラル水和剤:1000倍・10月15日, 29日, 11月4日, スミブレンド水和剤:2000倍・10月15日, 22日, 29日, 11月4日, モスピラン水溶剤:2000倍・10月15日, 22日, 29日, 11月4日, コテツフロアブル:2000倍・10月29日, 11月4日, アトマイヤーフロアブル:2000倍・10月29日, 11月4日,

処理区A, B, C共通: アグリマシ100 1000倍, アゼイオン水和剤 2000倍・5月10日, 6月23日:フルメット液剤
果実浸漬, ガニコール1000 1000倍・6月15日, ベルコート水和剤 1000倍・7月19日, 9月13日

7. 栽培概要 播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(10a)、水管理等
被覆資材(茶は寒れい紗番号)、いちご:おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載する
露地・施設の別 露地 有袋・無袋の別 処理区:無袋, 無処理:有袋(無底・9月21日~)

樹齢: 21年生, 施肥: 平成24年12月16日, エコロイール8883(8-8-8-3(苦土)-0.5(ホウ)) 100kg/10a, 熔燐: 100kg/10a, 剪定: 平成25年1月20日, 交配: 5月24日, 摘果: 6月12日.

収穫適期: 11月10日前後(園主の慣行の収穫時期)

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージを記入して下さい

開花:(開花始め) 5月15日頃, (満開期) 5月24日

9. 被験物質以外に使用した農薬 (別紙としても構いません)

平成24年5月12日:アグレプト水和剤 1000倍, テイブテックス乳剤 1000倍, 6月15日:ダニコール1000 1000倍
テイブテックス乳剤 1000倍, 6月20日:フルメット液剤 果実浸漬, 7月10日:ダニコール1000 1000倍,

10. 試験区

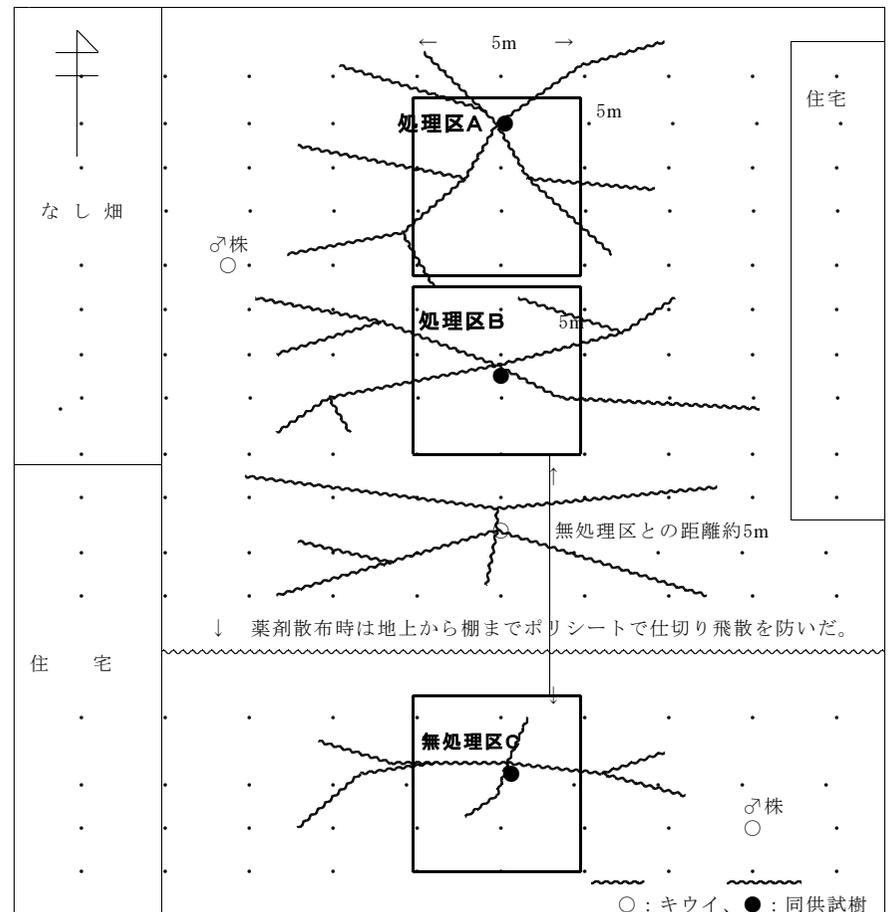
(1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A, B: 25㎡(5×5m), 無処理区C: 25㎡(5×5m)

(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 棚高さ: 1.5~1.2m

(3) 試験区の配置図 (試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)
ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点を○で囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。

イ) 試験区間および試験区と無処理区との距離を記入して下さい。

ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は給水口および排水口を記入して下さい。



1 1. 処理方法 (下のA~G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区分 処理月日	A 区		B 区				C 区	処理濃度	処 理 量		処理時の生育 ステージ	処理方法 (概略)
	①	②	③	④	⑤	⑥	無処理		1 0 a 当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
9月24日					○			下記(1)のとおり: ⑤	400L/10a(薬液が滴り 落ちる程度)	下記(2)のとおり:⑤	果実充実期	茎葉散布
9月30日		○		○	○			下記(1)のとおり: ②④⑤	400L/10a(薬液が滴り 落ちる程度)	下記(2)のとおり:②④⑤	果実充実期	茎葉散布
10月8日		○	○	○	○	○		下記(1)のとおり: ②③④⑤⑥	400L/10a(薬液が滴り 落ちる程度)	下記(2)のとおり:②③④⑤⑥	果実充実期	茎葉散布
10月14日	○	○	○	○	○	○		下記(1)のとおり: ①②③④⑤⑥	400L/10a(薬液が滴り 落ちる程度)	下記(2)のとおり:①②③④⑤ ⑥	果実充実期	茎葉散布
10月21日			○	○	○	○		下記(1)のとおり: ③④⑤⑥	400L/10a(薬液が滴り 落ちる程度)	下記(2)のとおり:③④⑤⑥	果実充実期 (収穫期)	茎葉散布
月 日												
月 日												
月 日												
月 日												
月 日												

(1) 処理濃度: ①1500倍, ②4000倍, ③2000倍, ④2000倍, ⑤1000倍, ⑥1000倍,
 (2) 試験区当(農薬量/散布量/面積): ①6.7g/10.0L/25㎡, ②: 2.5g/10.0L/25㎡, ③, ④: 5.0g/10.0L/25㎡, ⑤, ⑥: 10.0g/10.0L/25㎡,

区分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具(機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、 土壌混和時の深度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況
		特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
9月24日	試験区を25区画(1m×1m)に分け、(株丸山製作所製背負式バッテリー噴霧機【MSB1100Li(スーパー霧太郎)・エスノスル(NN-D-6)2頭口】を用いて時間計測により果実を含む茎葉に散布した。		B区 : 10時35分より散布。散布時の天気: 曇り一時晴れ。無風。散布当日の降雨はなかった。
9月30日	同上		当初、10月1日の散布予定であったが、降雨の予報が出ていたため、9月30日に変更した。 A区 : 12時より散布。散布時の天気: 晴れ。無風。 B区 : 11時40分より散布。散布時の天気: 晴れ。無風。散布当日の降雨はなかった。
10月8日	同上		A区 : 10時より散布。散布時の天気: 晴れ。無風。 B区 : 9時45分より散布。散布時の天気: 晴れ。無風。散布当日の降雨はなかった。
10月14日	同上		当初、15日の散布予定であったが、台風の予報が出ていたため、14日に変更した。 A区 : 15時45分より散布。散布時の天気: 晴れ。無風。 B区 : 16時10分より散布。散布時の天気: 晴れ。無風。散布当日の降雨はなかった。
10月21日	同上		B区 : 13時55分より散布。散布時の天気: 晴れ。無風。散布当日の降雨はなかった。
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			

(1) 展着剤 使用した区番号 なし 展着剤名 濃度または量

(2) 備考 処理区Bと無処理区Cの距離が短いため、薬剤散布時には処理区Bと無処理区Cの棚下をポリシートで仕切り、さらに無処理区Cの果実は第1回目散布前から果実に袋(キウイ用果実袋の底をハサミで切ったもの)をかけ、薬剤の飛散を防いだ。

1.2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式)に記入したものを記載する)

区分 採取月日	A区 試料番号	B区 試料番号	C区 試料番号	D区 試料番号	E区 試料番号	F区 試料番号	G区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
10月21日	A-1		C					C; 11:20~40・曇り一時晴れ A-1; 11:55~12:10・曇り一時晴れ	C→A-1	C; 30個・4.1kg A-1; 30個・3.8kg	10月21日
10月22日		B-1						B-1; 9:00~9:10・晴れ	-	B-1; 30個・4.1kg	10月22日
10月24日		B-2						B-2; 8:25~8:35・曇り	-	B-2; 30個・4.2kg	10月24日
10月28日	A-2	B-3						B-3; 10:30~40・晴れ A-2; 11:25~40・晴れ	-	B-3; 30個・4.1kg A-2; 30個・4.0kg	10月28日
11月4日	A-3							A-3; 10:40~50・曇り(早朝に降雨があり 採取時は僅かに濡れている果実もあった。)	-	A-3; 30個・4.2kg	11月4日

区分 採取月日	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
10月21日	1. 試料の大きさは (やや大き) 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある 2. 熟期は (やや早い) 通常 やや遅熟 3. その他 () 4. 原因
10月22日	1. 試料の大きさは (やや大き) 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある 2. 熟期は (やや早い) 通常 やや遅熟 3. その他 () 4. 原因
10月24日	1. 試料の大きさは (やや大き) 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある 2. 熟期は (やや早い) 通常 やや遅熟 3. その他 () 4. 原因
10月28日	1. 試料の大きさは (やや大き) 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある 2. 熟期は (やや早い) 通常 やや遅熟 3. その他 () 4. 原因
11月4日	1. 試料の大きさは (やや大き) 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある 2. 熟期は (やや早い) 通常 やや遅熟 3. その他 () 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは (やや大き) 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある 2. 熟期は (やや早い) 通常 やや遅熟 3. その他 () 4. 原因

(1) 試料採取方法 使用した器具(機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥等のための輸送方法を記載

試験区の境界部をはずし、偏りがないように薬剤散布時に25区画に分けた1区画より、ほぼ大きさの揃った果実0~2個ずつ合計32個以上を採取した。

(2) 採取後の調製・梱包方法 試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱穀・梱包等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

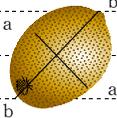
車の荷台にポリシートを敷き作業を行った、新しい段ボール箱に包装紙を敷き、採取した果実で大きさのできるだけ揃った果実30個を選び入れた。緩衝材として包装紙を使用した。

(3) 試料送付先 一般財団法人 残留農薬研究所 化学部

(4) 試料の輸送方法 到着日指定、温度指定、
輸送会社等

ヤマト運輸の冷蔵便を使用し、翌日午前中着指定で送付した。

(5) 備考 試験期間中の果実の肥大状況 (単位 mm)	月/日	9/24	9/30	10/8	10/14	10/21	10/28	11/4
(10個の平均値)	a (縦径)	45.7	45.2	46.3	46.4	46.7	47.1	47.6
	b (横径)	58.8	59.5	58.5	58.0	57.9	58.1	58.4





試験ほ場



試験区 A



試験区 B



試験区 C



散布状況



散布直後の果実



9月24日処理時の果実の大きさ



9月30日処理時の果実の大きさ



10月8日処理時の果実の大きさ



10月14日処理時の果実の大きさ



10月21日処理時の果実の大きさ



10月28日の果実の大きさ



11月4日の果実の大きさ



採取試料の状況



採取試料



採取試料の梱包

(H25農業登録に係る調理加工試験) 試料調製場所は観測地点より南東へ約4.5Km

小山 2013年9月 (日ごとの値) 主な要素

日	降水量(mm)			気温(°C)			風向・風速(m/s)						日照 時間 (h)	雪(cm)	
	合計	最大		平均	最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間風速		最多 風向		降雪 合計	最深積雪 値
		1時間	10分間					風速	風向	風速	風向				
1	91.5	80.0	22.0	27.1	35.1	22.5	1.6	7.1	北北東	13.0	北東	北東	7.5	///	///
2	1.0	1.0	0.5	25.7	30.0	23.1	0.8	1.9	北北西	5.0	北	北	0.8	///	///
3	0.0	0.0	0.0	27.5	32.9	23.8	2.1	5.9	南南東	12.3	南南東	南南東	5.9	///	///
4	23.5	8.5	5.5	26.3	31.1	22.8	2.3	7.4	南	13.4	南	南	2.2	///	///
5	11.5	5.0	1.5	26.0	28.5	24.4	1.7	4.9	南南東	7.8	南南東	南	1.0	///	///
6	1.0	1.0	0.5	23.4	24.9	21.9	1.5	2.6	北北東	5.0	北	北	0.0	///	///
7	0.5	0.5	0.5	23.9	27.6	21.7	1.2	2.4	北東	4.1	北東	東北東	0.2	///	///
8	9.0	4.0	2.0	22.3	25.0	20.2	1.2	4.5	北北東	8.2	北東	北	0.0	///	///
9	0.0	0.0	0.0	23.2	29.0	20.2	1.3	4.1	南南東	7.2	南南東	北北東	8.9	///	///
10	0.0	0.0	0.0	23.6	29.0	19.5	1.3	4.1	南南東	6.7	南	北	7.7	///	///
11	0.5	0.5	0.5	23.9	29.1	21.0	1.2	2.3	北北東	5.4	北東	北北西	2.1	///	///
12	0.0	0.0	0.0	26.1	31.5	20.3	1.1	2.7	南南東	4.0	南南東	北	9.5	///	///
13	0.0	0.0	0.0	26.5	31.5	23.1	1.6	4.4	南南東	7.1	南南東	北北東	7.7	///	///
14	0.0	0.0	0.0	27.0	31.6	22.5	1.4	4.2	南南東	7.6	南南東	南南東	4.1	///	///
15	82.0	26.5	6.5	25.1	28.5	21.6	1.3	4.1	北東	8.0	西南西	北	3.6	///	///
16	24.0	13.5	4.0	24.6	27.6	17.5	4.8	10.9	南	20.8	南南東	南南東	0.3	///	///
17	0.0	0.0	0.0	20.5	28.0	13.7	1.3	4.9	南南東	8.0	南南東	北北東	11.5	///	///
18	0.0	0.0	0.0	21.4	28.5	15.0	1.3	3.8	南南東	5.9	南南東	北	11.4	///	///
19	0.0	0.0	0.0	21.1	28.1	15.2	1.4	4.6	南南東	7.2	南南東	北北西	11.4	///	///
20	0.0	0.0	0.0	22.3	29.4	15.8	1.5	4.3	南南東	7.7	南南西	南	10.7	///	///
21	0.0	0.0	0.0	23.6	29.8	18.6	1.2	2.9	南南東	5.1	南東	南	9.5	///	///
22	0.0	0.0	0.0	23.4	30.3	18.5	1.6	3.5	東	8.2	東	東北東	7.3	///	///
23	0.0	0.0	0.0	20.7	24.0	19.1	2.2	4.3	北北東	9.4	北東	北北東	2.2	///	///
24	0.0	0.0	0.0	22.2	27.8	17.5	1.2	2.5	北北東	4.5	北北西	北北西	4.8	///	///
25	12.0	6.0	2.0	23.1	27.1	21.0	1.2	2.2	北北西	4.6	北北西	北北西	0.5	///	///
26	0.0	0.0	0.0	20.6	24.2	14.0	2.3	6.5	北北東	13.1	北東	北	0.1	///	///
27	0.0	0.0	0.0	16.7	24.3	9.9	1.3	4.4	南南東	8.3	南南東	北	9.5	///	///
28	0.0	0.0	0.0	18.0	24.4	10.7	1.3	4.7	南南東	7.7	南南東	北	8.8	///	///
29	0.0	0.0	0.0	20.3	25.9	16.8	1.1	2.4	南	4.6	南西	北	7.6	///	///
30	0.0	0.0	0.0	21.3	26.2	16.3	1.4	3.0	北北東	5.5	北北東	北北東	6.2	///	///

データに付加している記号の意味

(H25農薬登録に係る調理加工試験) 試料調製場所は観測地点より南東へ約4.5Km

小山 2013年10月 (日ごとの値) 主要要素

日	降水量(mm)			気温(°C)			風向・風速(m/s)						日照時間(h)	雪(cm)	
	合計	最大		平均	最高	最低	平均風速	最大風速		最大瞬間風速		最多風向		降雪合計	最深積雪値
		1時間	10分間					風速	風向	風速	風向				
1	0.0	0.0	0.0	22.3	27.0	19.1	1.1	3.0	西南西	4.7	西南西	北北西	1.9	///	///
2	5.5	3.0	1.5	22.9	26.6	20.9	1.6	3.4	南東	8.6	北北東	北	0.6	///	///
3	3.5	2.0	1.5	22.3	29.7	18.3	1.6	3.5	北北東	6.6	北東	北	6.3	///	///
4	0.0	0.0	0.0	17.6	19.3	16.3	1.5	3.7	北東	6.7	北東	北	0.0	///	///
5	4.5	1.5	1.0	17.9	20.2	15.9	1.6	2.5	北	6.9	北	北	0.0	///	///
6	2.0	1.0	0.5	21.4	26.8	18.1	1.2	3.0	南南東	4.9	南南東	北北東	1.1	///	///
7	0.0	0.0	0.0	23.3	28.1	20.0	1.3	3.4	南南東	6.9	南南東	南	3.9	///	///
8	0.0	0.0	0.0	23.6	29.7	20.2	1.7	4.3	南南東	6.6	南	南	6.1	///	///
9	0.0	0.0	0.0	24.9	29.7	21.2	3.3	8.1	南	17.5	南	南	6.0	///	///
10	0.5	0.5	0.5	23.1	27.8	19.9	1.5	3.5	南東	6.6	南南東	北北西	3.8	///	///
11	1.0	0.5	0.5	22.7	28.2	19.9	1.2	3.6	南	5.9	南	北北西	5.0	///	///
12	0.0	0.0	0.0	22.7	31.5	15.7	1.8	6.5	北北東	13.3	北東	西南西	10.6	///	///
13	0.0	0.0	0.0	17.8	25.8	11.5	1.1	2.6	南西	5.1	西	東北東	10.7	///	///
14	0.0	0.0	0.0	17.4	23.9	9.6	1.3	3.6	南南東	5.3	南南東	北北西	8.0	///	///
15	23.0	7.5	2.0	17.3	19.6	14.7	1.3	5.0	北北東	12.0	北北東	北	0.0	///	///
16	66.0	14.0	3.0	18.1	24.8	11.3	3.1	8.1	西南西	20.8	北	北	1.8	///	///
17	0.0	0.0	0.0	15.0	20.8	7.8	1.2	3.1	南	5.9	南南東	南南東	8.8	///	///
18	0.0	0.0	0.0	15.2	20.0	11.4	1.3	3.0	南南東	6.2	東南東	北	6.7	///	///
19	2.0	1.5	0.5	15.2	18.6	13.2	1.7	3.9	北北東	7.9	北東	北	0.0	///	///
20	45.0	12.0	3.0	15.0	16.3	13.5	2.2	3.6	北北西	11.2	北	北北西	0.0	///	///
21	0.0	0.0	0.0	17.6	22.8	12.3	1.2	3.2	南南東	5.3	東	東北東	5.6	///	///
22	0.0	0.0	0.0	16.9	19.1	15.4	1.7	4.1	北北東	8.0	北東	北北東	0.6	///	///
23	0.0	0.0	0.0	16.0	19.0	14.3	1.8	3.5	北東	6.9	東	北	0.6	///	///
24	3.5	1.0	0.5	15.3	17.5	13.1	1.4	3.3	北北東	6.5	北北東	北北西	0.0	///	///
25	21.5	5.0	2.0	17.8	19.7	15.8	1.6	5.7	北北東	12.1	北東	北	0.0	///	///
26	30.5	6.0	2.5	13.2	17.2	9.4	1.2	3.8	北北東	6.6	北東	南南西	0.4	///	///
27	0.5	0.5	0.5	12.3	20.3	7.3	1.2	4.6	西南西	10.4	南西	北北東	7.8	///	///
28	0.0	0.0	0.0	12.5	19.4	6.7	1.0	2.1	南	3.7	南南東	北	10.0	///	///
29	0.5	0.5	0.5	13.8	18.7	9.5	1.1	2.3	南	4.0	北東	北	1.4	///	///
30	1.0	1.0	0.5	16.1	22.3	11.0	1.1	4.2	北東	7.0	北東	西南西	7.8	///	///
31	0.0	0.0	0.0	14.4	20.4	8.7	1.2	3.4	南	5.7	南南東	北	8.1	///	///

データに付加している記号の意味

(H25農薬登録に係る調理加工試験) 試料調製場所は観測地点より南東へ約4.5Km

小山 2013年11月 (日ごとの値) 主要要素

日	降水量(mm)			気温(°C)			風向・風速(m/s)						日照 時間 (h)	雪(cm)	
	合計	最大		平均	最高	最低	平均 風速	最大風速		最大瞬間風速		最多 風向		降雪 合計	最深積雪 値
		1時間	10分間					風速	風向	風速	風向				
1	0.0	0.0	0.0	13.5	20.4	8.0	0.9	1.7	北北東	4.2	北東	北北西	9.2	///	///
2	0.0	0.0	0.0	14.1	17.9	9.0	0.6	1.8	南南東	3.3	南東	北北西	0.7	///	///
3	0.0	0.0	0.0	15.6	20.0	11.8	0.6	1.6	北東	3.2	北東	北	1.8	///	///
4	1.0	0.5	0.5	14.3	20.1	9.0	1.1	6.1	北北東	10.9	北東	北北西	2.0	///	///
5	0.0	0.0	0.0	12.1	19.5	6.4	0.9	2.1	南	4.3	南南東	北北西	9.9	///	///
6	0.0	0.0	0.0	12.0	18.8	6.5	1.2	4.0	南西	7.8	西南西	北北東	9.0	///	///
7	9.0	4.5	1.5	11.8	14.4	9.5	0.9	3.1	南西	4.6	南西	南西	0.0	///	///
8	0.0	0.5	0.0	13.0	21.3	7.8	1.4	4.2	北東	7.9	北東	北北西	8.5	///	///
9	0.0	0.0	0.0	10.3	14.2	6.3	1.1	2.0	北北東	4.7	北	北北西	0.3	///	///
10	0.0	0.0	0.0	12.2	14.9	10.4	1.4	3.5	北東	8.1	北	北北東	0.3	///	///
11	0.5	0.5	0.5	8.9	14.6	3.0	1.4	3.5	北北東	7.6	北	北	1.9	///	///
12	0.0	0.0	0.0	7.1	14.3	0.6	1.5	3.4	北北東	5.8	北北東	北	8.9	///	///
13	0.0	0.0	0.0	5.5	11.2	0.5	1.2	4.0	北東	6.6	北東	北北東	6.0	///	///
14	0.0	0.0	0.0	7.1	13.2	-0.6	1.0	2.4	南	4.7	南南東	北北西	8.3	///	///
15	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
16	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
17	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
18	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
19	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
20	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
21	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
22	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
23	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
24	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
25	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
26	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
27	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
28	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
29	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///
30	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///	///

データに付加している記号の意味

平成 25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間2013年9月~10月)

1. 被験物質

- (1) 一般名・剤型
- ①ピリダベン(サンマイル)水和剤
 - ②フルベンジアミド(フェニックス)顆粒水和剤
 - ③クレソキシムメチル(ストロビー)ドライフロアブル
 - ④プロシミドン・ジエトフェンカルブ(スミブレンド)水和剤
 - ⑤チオファネートメチル(トップジンM)水和剤
 - ⑥ジノテフラン(スタークル)顆粒水溶剤

- (2) 有効成分名及び成分含有率
- ①ピリダベン・20.0%
 - ②フルベンジアミド・20.0%
 - ③クレソキシムメチル・50.0%
 - ④プロシミドン・37.5%、ジエトフェンカルブ・12.5%
 - ⑤チオファネートメチル・70.0%
 - ⑥ジノテフラン・20.0%

- (3) 被験物質のLot No.
- ① OBK028
 - ② S1L01
 - ③ E3N02
 - ④ HI228
 - ⑤ 2306S
 - ⑥ 12F50024

2. 農作物名 キウイフルーツ 品種名 ハイワード

3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会 山梨試験場

試験圃場所在地 山梨県甲州市塩山牛奥 日植防借り上げ圃場

4. 試験責任者氏名 田代定良、森田和博、中西秀明、丸山直哉

5. 土性 砂土・砂壤土・○壤土・埴壤土・埴土 (○を付す) 減水深 - cm/日

6. 過去1年間に作付けした作物および使用した農薬(別紙としても構いません)

なし

7. 栽培概要 播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、被覆資材(茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載する

露地・施設の別 露地 有袋・無袋の別 無袋

樹齢:26年,栽植密度:約14樹/10a(9×8m), 棚仕立て, 樹高:約1.7m,

整枝・剪定:平成24年12月~平成25年1月, 施肥:平成25年5月上旬(配合肥料(N10-P18-K12)10kg/樹,

開花始め:平成25年5月18日, 満開期:平成25年5月24日頃

収穫期間(適期): 10月中旬~11月上旬

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージ

を記入して下さい。

9. 被験物質以外に使用した農薬(別紙としても構いません)

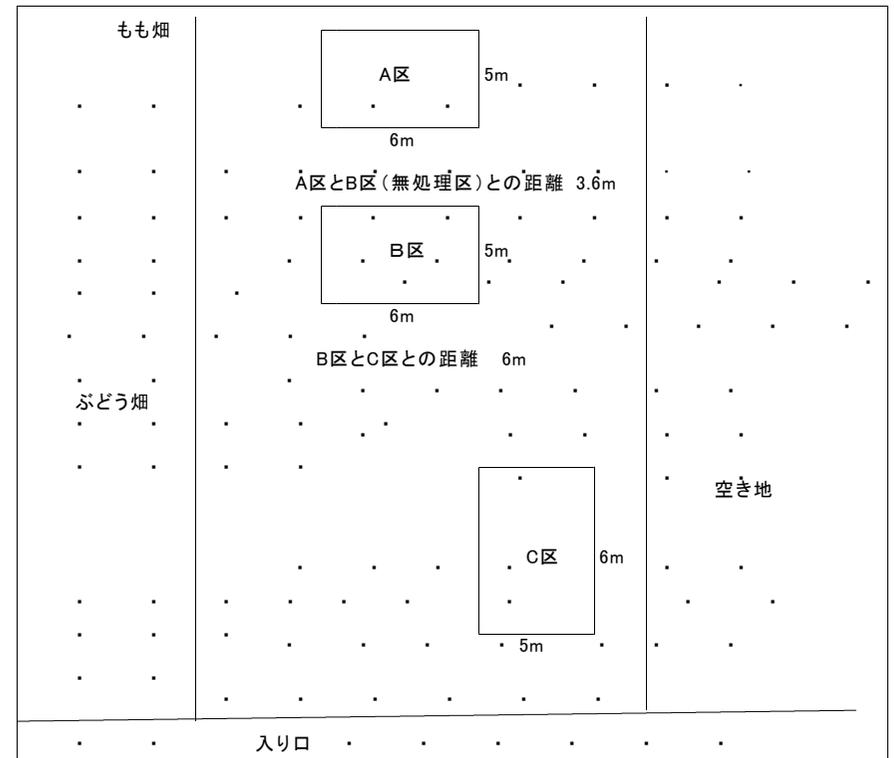
なし

10. 試験区

(1) 1試験区の面積および本(株)数 A区, B区, C区:30㎡(5m×6m)

(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 棚高:1.5m

(3) 試験区の配置図(試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)



H25 調理加工(キウイフルーツ)

試験場名 一般社団法人 日本植物防疫協会 山梨試験場

1. 処理方法(下のA~G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

①サンマイル水和剤 ②フェニックス顆粒水和剤 ③ストロビードライフロアブル ④スミブレンド水和剤 ⑤トップジンM水和剤 ⑥スタークル顆粒水溶剤

区分 処理月日	A区	B区	C区	D区	E区	F区	G区	処理濃度	処理量		処理時の生育 ステージ	処理方法(概略)
									10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
9月19日	②	⑤	無処理					②4000倍 ⑤1000倍	333L	②2.50g/10L/30㎡ ⑤10.00g/10L/30㎡	成熟期	茎葉全面散布
9月26日	②	④⑤						②4000倍 ④2000倍 ⑤1000倍	333L	②2.50g/10L/30㎡ ④5.00g/10L/30㎡ ⑤10.00g/10L/30㎡	成熟期	茎葉全面散布
10月3日	①②	③④⑤⑥						①1500倍 ②4000倍 ③2000倍 ④2000倍 ⑤1000倍 ⑥1000倍	333L	①6.67g/10L/30㎡ ②2.50g/10L/30㎡ ③5.00g/10L/30㎡ ④5.00g/10L/30㎡ ⑤10.00g/10L/30㎡ ⑥10.00g/10L/30㎡	成熟期	茎葉全面散布
10月10日		③④⑤⑥						③2000倍 ④2000倍 ⑤1000倍 ⑥1000倍	333L	③5.00g/10L/30㎡ ④5.00g/10L/30㎡ ⑤10.00g/10L/30㎡ ⑥10.00g/10L/30㎡	成熟期	茎葉全面散布
10月16日		③④⑤⑥						③2000倍 ④2000倍 ⑤1000倍 ⑥1000倍	333L	③5.00g/10L/30㎡ ④5.00g/10L/30㎡ ⑤10.00g/10L/30㎡ ⑥10.00g/10L/30㎡	成熟期	茎葉全面散布
月 日												
月 日												

区分 処理月日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具(機械)、樹幹塗布、落水散布時の水管理、 土壌湿和時の湿度・土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する
9月19日	(株)丸山製作所製背負式バッテリー噴霧機(MSB151-A)・付属二頭ノズルを用いて、茎葉(果実を含む)全体に葉から滴り落ちる程度を散布した。		9時00分から散布。散布時の天候:晴れ。無風。
9月26日	(株)丸山製作所製背負式バッテリー噴霧機(MSB151-A)・付属二頭ノズルを用いて、茎葉(果実を含む)全体に葉から滴り落ちる程度を散布した。		14時10分から散布。散布時の天候:曇り。弱風。風の影響なし。16時に1mmの降雨があったが、影響なし。
10月3日	(株)丸山製作所製背負式バッテリー噴霧機(MSB151-A)・付属二頭ノズルを用いて、茎葉(果実を含む)全体に葉から滴り落ちる程度を散布した。		9時55分から散布。散布時の天候:晴れ。無風。15時、16時、21時23時に計8.5mmの降雨があったが、影響なし。
10月10日	(株)丸山製作所製背負式バッテリー噴霧機(MSB151-A)・付属二頭ノズルを用いて、茎葉(果実を含む)全体に葉から滴り落ちる程度を散布した。		11時00分から散布。散布時の天候:晴れ。無風。
10月16日	(株)丸山製作所製背負式バッテリー噴霧機(MSB151-A)・付属二頭ノズルを用いて、茎葉(果実を含む)全体に葉から滴り落ちる程度を散布した。		15時40分から散布。散布時の天候:晴れ。弱風。風の影響なし。1時から7時に計67.5mmの降雨があったが、影響なし。
月 日			
月 日			
月 日			

(1)展着剤 使用せず

(2)備考 薬剤を均一に散布するために試験区30㎡を30区画(1m×1m)に分け時間計測により散布した。また、各薬剤は試験場内または試験圃場で散布直前に混用液を調製した。

12. 試料採取(試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式)に記入したものを記載する)

区分 採取月日	A区 試料番号	B区 試料番号	C区 試料番号	D区 試料番号	E区 試料番号	F区 試料番号	G区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順(区番号順)	試料送付量	試料送付月日
10月10日	A-1		C					C区: 9時45分～9時54分 晴れ A区: 10時20分～10時26分 晴れ	C→A	C区35個(3.4kg)×1分析 A区35個(3.5kg)×1分析	10月10日
10月17日	A-2	B-1						A区: 14時30分～14時40分 曇り B区: 15時05分～15時15分 曇り	A→B	A区35個(3.7kg)×1分析 B区35個(3.6kg)×1分析	10月17日
10月19日		B-2						B区: 9時02分～9時10分 曇り	B	B区35個(3.6kg)×1分析	10月19日
10月23日		B-3						B区: 10時40分～10時53分 曇り	B	B区35個(3.6kg)×1分析	10月23日
10月24日	A-3							A区: 9時10分～9時18分 曇り	A	A区35個(3.6kg)×1分析	10月24日
月 日										各区 以上× 分析	月 日

区分 採取月日	送付試料について(該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
10月10日	1. 試料の大きさは(やや大きい) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他() 4. 原因
10月17日	1. 試料の大きさは(やや大きい) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他() 4. 原因
10月19日	1. 試料の大きさは(やや大きい) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他() 4. 原因
10月23日	1. 試料の大きさは(やや大きい) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他() 4. 原因
10月24日	1. 試料の大きさは(やや大きい) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い) <input checked="" type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他() 4. 原因
月 日	1. 試料の大きさは(やや大きい) <input type="radio"/> 通常 やや小さい 大きさにバラツキがある) 2. 熟期は(やや早い) <input type="radio"/> 通常 やや過熟) 3. その他() 4. 原因

(1) 試料採取方法

薬剤散布時に分けた30区画の境界部を除きディスプレイ手袋をはめた手で、1区画1個以上合計40個以上を採取した。(手袋は試験区毎に交換した。)

(2) 採取後の調製・梱包方法

試料採取後の加工、水洗い、根等の除去、風乾、乾燥、
脱穀・製すり等の方法、雨後の試料調製方法および試料の梱包方法を記載

採取後は圃場隣接地で、各区大きさの揃った果実を35個選び、一つずつティッシュペーパーでくるみ、新しいダンボール箱にわら半紙を緩衝材として用いて梱包した。

ダンボール箱の内側に「試験区ラベル」を張り、外側には「梱包シール」を張った。処理区と無処理区は別梱包とした。

ただし10月19日の採取時には、降雨により試料が濡れていたため試験場に持ち帰り、試料調製室で風乾後梱包した。

(3) 試料送付先

分析機関: 一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法

到着日指定、温度指定、
輸送会社等 採取当日、ヤマト運輸(株)のクール宅急便(冷蔵)で翌日午前中着指定で送付した。

(5) 備考



試験区A 2013年9月19日



散布時の果実(A区) 2013年9月19日



試験区B 2013年9月19日



散布時の果実(B区) 2013年9月19日

H25 調理加工(キウイフルーツ)



薬剤秤量の様子 2013年9月26日



散布機と薬液 2013年9月26日



散布状況 2013年9月26日



薬液の調製 2013年9月26日

H25 調理加工(キウイフルーツ)



試料採取の様子 2013年10月10日



採取した果実(C区) 2013年10月10日



試料梱包の様子 2013年10月10日



採取した果実(A区) 2013年10月10日

H25 調理加工(キウイフルーツ)



採取時の果実の大きさ 2013年10月10日



採取時の果実(濡れた状態) 2013年10月19日



濡れた試料風乾の様子 2013年10月19日



風乾後の試料 2013年10月19日

平成25年度 農薬作物残留量分析試料調製明細書

(試験期間 H25年10月 ~H25年11月)

1-1. 被験物質 (処理区A)

- (1) 一般名・剤型 ①ピリダベン(サンマト水和剤)、②フルベンジアミド(フェニックス顆粒水和剤)
(2) 有効成分名及び成分含有率 ①ピリダベン: 20.0%、②フルベンジアミド: 20.0%
(3) 被験物質の Lot No. ① 0BK028、② S1L01

1-2. 被験物質 (処理区B)

- (1) 一般名・剤型 ③プロミトン・ジエトフェンカルブ(スプレント水和剤)、④チオファネートメチル(トップジンM水和剤)、⑤ジメチアザナチオン(スタークル顆粒水溶剤)、⑥クレキシムメチル(ストロビートライフロアブル)
(2) 有効成分名及び成分含有率 ③プロミトン: 37.5%、ジエトフェンカルブ: 12.5%、④チオファネートメチル: 70.0%、⑤ジメチアザナチオン: 20.0%、⑥クレキシムメチル: 50.0%

- (3) 被験物質の Lot No. ③ HI228、④ 2306S、⑤ 12F50024、⑥ E3N02

2. 農作物名 キウイフルーツ 品種名 ヘイワード
3. 試験実施機関名 一般社団法人 日本植物防疫協会高知試験場
試験圃場所在地 高知県土佐市波介 農家露地ほ場
4. 試験責任者氏名 奴田原誠克、松村栄一、内藤 覚、森 克彦、飯干浩美、中村達都、川北充彦、谷山頼清
5. 土性 砂土・砂壤土・壤土(植壤土)・埴土 (Oを付す) 減水深 — cm/日
6. 過去1年間に作付けた作物及び使用した農薬 (別紙としても構いません) 別紙のとおり。

7. 栽培概要 播種期、移植期、施肥の種類・量・時期、樹齢、栽植密度(畝間・株間)・株数(/10a)、水管理等、被覆資材(茶は寒れい紗番号)、いちご・おうとう等の被覆時期、茶の寒れい紗・トンネル栽培の被覆時期を記載する
露地・施設の別: 露地栽培、有袋・無袋の別: 無袋、仕立て法: 棚仕立て
樹齢: 26年生、樹高: 約2m 栽植密度(/10a): 約110本(樹間3.0m×3.0m)
施肥 H25.1/12: 園芸有機777 60kg/10a、11/23: 園芸化成S550 10kg/10a
開花日: H25.5/10~6/1、人工受粉日: H25.5/12~5/26。その他一般管理は慣行に従った。
収穫期間(適期): 11月中下旬

8. 生育ステージ 試験計画書に指定された生育ステージを記入下さい

9. 被験物質以外に使用した農薬(別紙としても構いません)

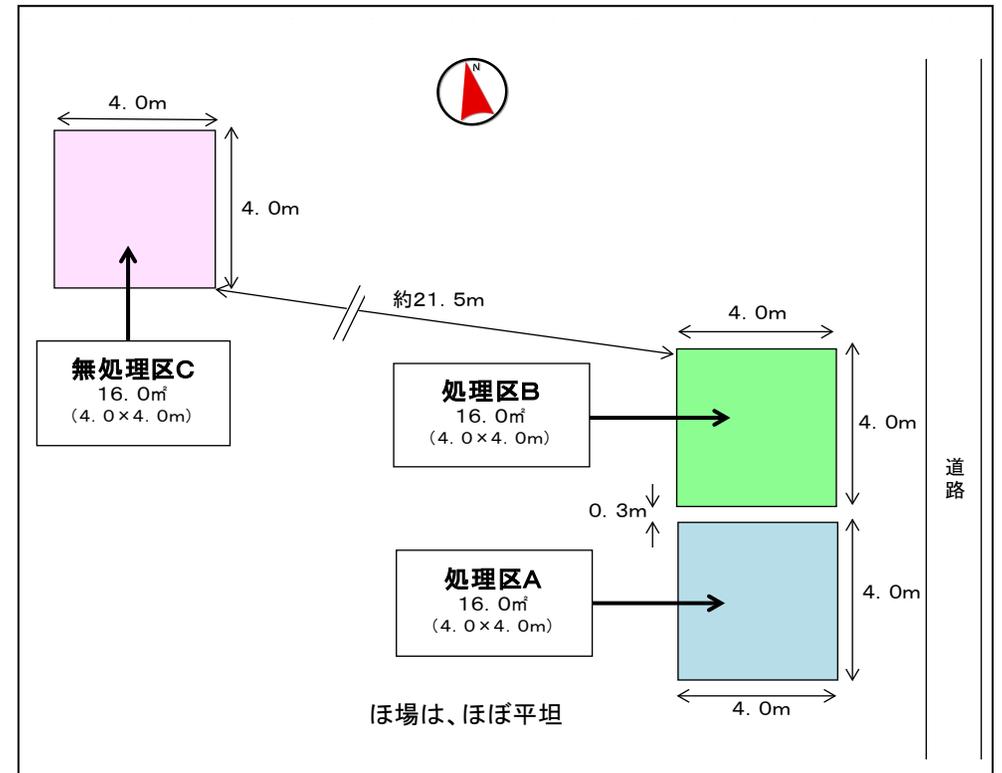
農薬使用なし

10. 試験区

- (1) 1試験区の面積および本(株)数 処理区A, B: 16.0㎡ (4.0m×4.0m) 無処理区 C: 16.0㎡ (4.0m×4.0m)
(2) 施設の場合、面積・容積・高さ —

- (3) 試験区の配置図(試験区全体および周辺農地等の状況がわかるように記入して下さい。記入できない場合は別紙としても構いません)

ア) 下口内の点と点を結び、処理区および無処理区の配置関係を作図して下さい。果樹1樹は点をOで囲んで表し、必要に応じて枝の伸長方向を記載して下さい。
イ) 試験区間および試験区と無処理区間の距離を記入して下さい。
ウ) 圃場の畝方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。水田は吸水口および排水溝を記入して下さい。



1.1. 処理方法 (下のA~G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

処理月日	区分	A区	B区	C区	D区	処理濃度	処 理 量		処理時の生育ステージ	処理方法(概略)
							10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
H25 10月 22日		②		無処理		②4000倍	350L	②1.4g/5.6L/16.0m ²	成熟期	散布
10月 30日		②				②4000倍	350L	②1.4g/5.6L/16.0m ²	成熟期	散布
11月 6日		①、②				①1500倍、②4000倍	350L	①3.7g、②1.4g/5.6L/16.0m ²	成熟期	散布
月 日										
月 日										
月 日										
月 日		①オマイト水和剤								
月 日		②フェニックス顆粒水和剤								
月 日										

処理月日	区分	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具(機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、 土壌混和時の深度、土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する		
				H25 10月 22日		背負式バッテリー動力噴霧機(丸山製作所製 MSB151-A)にエコシャワーH10ノズル1頭口(丸山製)を装着して均一に散布した。
10月 30日		背負式バッテリー動力噴霧機(丸山製作所製 MSB151-A)にエコシャワーH10ノズル1頭口(丸山製)を装着して均一に散布した。		処理開始時刻 14:05、処理時天候 晴れ、	処理当日天候 晴れ、	風の影響はなし
11月 6日		背負式バッテリー動力噴霧機(丸山製作所製 MSB151-A)にエコシャワーH10ノズル1頭口(丸山製)を装着して均一に散布した。		処理開始時刻 10:15、処理時天候 くもり、	処理当日天候 くもり、	風の影響はなし
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						

(1) 展着剤 _____ 使用した区番号 _____ 展着剤名 _____ 濃度または量 _____

(2) 備考 _____

1.1. 処理方法 (下のA~G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

処理月日	区分	A区	B区	C区	D区	処理濃度	処 理 量		処理時の生育ステージ	処理方法(概略)
							10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
H25 10月 16日			④	無処理		④1000倍	350L	④5.6g/5.6L/16.0m ²	成熟期	散布
10月 22日			③、④			③2000倍、④1000倍	350L	③2.8g、④5.6g/5.6L/16.0m ²	成熟期	散布
10月 30日			③、④、⑤、⑥			③2000倍、④1000倍、⑤1000倍、⑥2000倍	350L	③2.8g、④5.6g、⑤5.6g、⑥2.8g/5.6L/16.0m ²	成熟期	散布
11月 6日			③、④、⑤、⑥			③2000倍、④1000倍、⑤1000倍、⑥2000倍	350L	③2.8g、④5.6g、⑤5.6g、⑥2.8g/5.6L/16.0m ²	成熟期	散布
11月 12日			③、④、⑤、⑥			③2000倍、④1000倍、⑤1000倍、⑥2000倍	350L	③2.8g、④5.6g、⑤5.6g、⑥2.8g/5.6L/16.0m ²	収穫期	散布
月 日										
月 日										
月 日		③スプレッド水和剤								
月 日		④トップシールド水和剤								
月 日		⑤スタークル顆粒水溶剤								
月 日		⑥ストロビートライフロアブル								

処理月日	区分	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の使用器具(機械)、樹幹塗布、灌水散布時の水管理、 土壌混和時の深度、土壌水分、種子消毒時の水温・液比等	処理時刻、処理時の天候を含む処理日の天気概況 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する	
				H25 10月 16日	
10月 22日		背負式バッテリー動力噴霧機(丸山製作所製 MSB151-A)にエコシャワーH10ノズル1頭口(丸山製)を装着して均一に散布した。		処理開始時刻 14:25 処理時天候 くもり、処理当日天候 晴れのちくもり、	風の影響なし
10月 30日		背負式バッテリー動力噴霧機(丸山製作所製 MSB151-A)にエコシャワーH10ノズル1頭口(丸山製)を装着して均一に散布した。		処理開始時刻 14:15、処理時天候 晴れ、 処理当日天候 晴れ	風の影響なし
11月 6日		背負式バッテリー動力噴霧機(丸山製作所製 MSB151-A)にエコシャワーH10ノズル1頭口(丸山製)を装着して均一に散布した。		処理開始時刻 10:25、処理時天候 くもり、処理当日天候 くもり	風の影響なし
11月 12日		背負式バッテリー動力噴霧機(丸山製作所製 MSB151-A)にエコシャワーH10ノズル1頭口(丸山製)を装着して均一に散布した。		処理開始時刻 14:00、処理時天候 晴れ、 処理当日天候 晴れ	風の影響なし
月 日					
月 日					
月 日					
月 日					
月 日					

(1) 展着剤 _____ 使用した区番号 _____ 展着剤名 _____ 濃度または量 _____

(2) 備考 _____

1 2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」に記入したものを記載する)

採取月日	区分	A区 試料番号	B区 試料番号	C区 試料番号	D区 試料番号	E区 試料番号	F区 試料番号	G区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
H25 11月 13日		A-1	B-1	C (無処理)					A-1 : 8:10~ 8:15 晴れ B-1 : 8:20~ 8:25 晴れ C : 7:55~ 8:05 晴れ	C→A→B	各区30個以上×1分析	11月 13日
11月 15日			B-2						B-2 : 8:55~ 9:00 くもり	B	30個以上×1分析	11月 15日
11月 19日			B-3						B-3 : 7:50~ 7:55 晴れ	B	30個以上×1分析	11月 19日
11月 20日		A-2							A-2 : 8:50~ 8:55 晴れ	A	30個以上×1分析	11月 20日
11月 27日		A-3							A-3 : 9:25~ 9:30 晴れ	A	30個以上×1分析	11月 27日
月 日											各区 以上× 分析	月 日
月 日											各区 以上× 分析	月 日

採取月日	区分	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)			
H25 11月 13日		1. 試料の大きさは (やや大きい <input checked="" type="radio"/> やや小さい <input type="radio"/> 大きさにバラツキがある)	2. 熟期は (やや早い <input checked="" type="radio"/> やや過熟 <input type="radio"/> 3. その他 ()	4. 原因	
11月 15日		1. 試料の大きさは (やや大きい <input checked="" type="radio"/> やや小さい <input type="radio"/> 大きさにバラツキがある)	2. 熟期は (やや早い <input checked="" type="radio"/> やや過熟 <input type="radio"/> 3. その他 ()	4. 原因	
11月 19日		1. 試料の大きさは (やや大きい <input checked="" type="radio"/> やや小さい <input type="radio"/> 大きさにバラツキがある)	2. 熟期は (やや早い <input checked="" type="radio"/> やや過熟 <input type="radio"/> 3. その他 ()	4. 原因	
11月 20日		1. 試料の大きさは (やや大きい <input checked="" type="radio"/> やや小さい <input type="radio"/> 大きさにバラツキがある)	2. 熟期は (やや早い <input checked="" type="radio"/> やや過熟 <input type="radio"/> 3. その他 ()	4. 原因	
11月 27日		1. 試料の大きさは (やや大きい <input checked="" type="radio"/> やや小さい <input type="radio"/> 大きさにバラツキがある)	2. 熟期は (やや早い <input checked="" type="radio"/> やや過熟 <input type="radio"/> 3. その他 ()	4. 原因	
月 日		1. 試料の大きさは (やや大きい <input type="radio"/> やや小さい <input type="radio"/> 大きさにバラツキがある)	2. 熟期は (やや早い <input type="radio"/> やや過熟 <input type="radio"/> 3. その他 ()	4. 原因	
月 日		1. 試料の大きさは (やや大きい <input type="radio"/> やや小さい <input type="radio"/> 大きさにバラツキがある)	2. 熟期は (やや早い <input type="radio"/> やや過熟 <input type="radio"/> 3. その他 ()	4. 原因	

(1) 試料採取方法

使用した器具 (機械)、採取方法の詳細、
採取後乾燥のための輸送方法を記載

試験区全体から偏りがないように、できるだけ大きさのそろった果実を手で採取し、未使用の包装紙を敷いた採取用カゴに入れ高知試験場試料調製室まで自動車ですんだ。

(2) 採取後の調製・梱包方法

採取した果実は試験区毎に未使用の包装紙を敷いたダンボール箱に同じ方向に並べ、上から包装紙を被せ果実が動かないように隙間に包装紙を詰めた。ダンボール箱には試験区ラベル及び梱包シールを貼り付け梱包した。

(3) 試料送付先

分析機関 一般財団法人 残留農薬研究所

(4) 試料の輸送方法

到着日指定、温度指定、
輸送会社等

ヤマト運輸株式会社の冷蔵便を使用し、送付翌日午前着で送付した。

(5) 備考

気象表

観測地点 高知市比島町 高知地方気象台 (アメダス観測地点、試験地からの距離: 約 15 km)

記号; ○: 薬剤処理日

試料調製場所 高知県土佐市波介 農家露地ほ場

△: 試料採取日

気温: 平均気温 (1 時間毎) 降水量: 日界 時

(25年) 測定時刻 午前 時

月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
10	気温 (施設内温度)																20.4	17.1	18.0	17.1	18.9	21.1	20.7	19.1	21.0	19.9	18.1	15.3	15.1	16.5	17.4	17.1	
	降水量																		2.5	10.0	2.0			37.5	87.5	196.0							
	薬剤処理/試料採取																○						○									○	
	区記号 (試料番号)																B							A, B								A, B	
11	気温 (施設内温度)	18.2	18.6	19.2	19.2	16.1	16.9	18.1	15.9	15.9	17.9	13.8	11.4	10.9	11.5	14.1	12.9	12.8	10.1	8.3	8.9	9.6	9.3	10.3	10.9	14.1	10.2	9.9					
	降水量			1.5	2.5							11.5					7.5										71.5						
	薬剤処理/試料採取						○						○	△		△					△	△						△					
	区記号 (試料番号)						A, B						B	A-1, B-1, C	B-2						B-3	A-2						A-3					
	気温 (施設内温度)																																
	降水量																																
	薬剤処理/試料採取																																
	区記号 (試料番号)																																
	気温 (施設内温度)																																
	降水量																																
	薬剤処理/試料採取																																
	区記号 (試料番号)																																
	気温 (施設内温度)																																
	降水量																																
	薬剤処理/試料採取																																
	区記号 (試料番号)																																

アメダスデータを利用した。

薬剤処理日 (ガス抜き等を含む)、試料採取日等を記号で記入する。なお施設試験の場合は該当する記号を「施設内温度」欄へ、露地試験の場合には「気温」欄へそれぞれ記入する。

また、薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号 (送付カードと同様の番号) を当該欄へ記入する。

別紙

6. 過去1年間に使用した農薬

作物:キウイフルーツ

〔処理区A〕

H24	10/24	ロブラール水和剤1000倍、スミブレード水和剤2000倍	散布
	10/31	ロブラール水和剤1000倍、スミブレード水和剤2000倍	散布
	11/ 7	アドマイヤーフロアブル2000倍、ロブラール水和剤1000倍、スミブレード水和剤2000倍、コテツフロアブル2000倍	散布
	11/13	アドマイヤーフロアブル2000倍、ロブラール水和剤1000倍、スミブレード水和剤2000倍、コテツフロアブル2000倍	散布
H25	1/19	機械油乳剤15倍	散布
	5/ 4	スプラサイド水和剤1500倍、ダコニール1000 1000倍	散布
	7/ 6	スプラサイド水和剤1500倍、ダコニール1000 1000倍	散布

〔処理区B〕

H24	10/10	ベンレート水和剤2000倍、アディオオン乳剤2000倍	散布
	10/16	フロンサイド水和剤1000倍、ベンレート水和剤2000倍、アディオオン乳剤2000倍	散布
	10/24	モスピラン水溶剤2000倍、ベンレート水和剤2000倍、アディオオン乳剤2000倍	散布
	10/31	モスピラン水溶剤2000倍、ベンレート水和剤2000倍、アディオオン乳剤2000倍	散布
	11/ 7	モスピラン水溶剤2000倍、ベンレート水和剤2000倍、アディオオン乳剤2000倍	散布
H25	1/19	機械油乳剤15倍	散布
	5/ 4	スプラサイド水和剤1500倍、ダコニール1000 1000倍	散布
	7/ 6	スプラサイド水和剤1500倍、ダコニール1000 1000倍	散布

〔無処理区C〕

H24	11/ 4	トップジンM水和剤1000倍	散布
H25	1/19	機械油乳剤15倍	散布
	5/ 4	スプラサイド水和剤1500倍、ダコニール1000 1000倍	散布
	7/ 6	スプラサイド水和剤1500倍、ダコニール1000 1000倍	散布

別紙

第 1 図 キウイフルーツ試験ほ場



ほ場全景



ほ場内での果実の状況



試験区 A



試験区 B



無処理区 C

第2図 各処理時における果実の大きさ



10月16日



10月22日



10月30日



11月6日



11月12日

第3図 各採取時における果実の大きさ



11月13日



11月15日



11月19日



11月20日



11月27日

平成 21～25 年度総括資料

1. 調理加工試験一覧

農林水産省：生産資材安全確保推進事業において、「農薬登録に係る調理加工試験の導入に関する調査事業」を平成 21 年度から 25 年度の 5 年間継続で実施した。実施した試験の対象農薬の情報と作物の組み合わせを下記の一覧表にまとめた。

資料表 調理加工試験における対象農薬の情報と作物の組み合わせ

農薬名	log Pow	水溶解度 (mg/L)	対象作物							
			米	ごま	だいず	すいか 大玉	すいか 小玉	メロン ネット	メロン 非ネット	キウイ フルーツ
ピリダリル	8.1	0.00015						○	○	
エトフェプロックス	6.9	0.0225	○			○	○	○		
シペルメトリン	6.6	0.004						○	○	○
ピリダベン	6.37	0.012								○
アセキノシル	>6.2	0.00669				○	○			
ペルメトリン	6.1	0.006		○	○		○			○
トルフェンピラド	5.61	0.087				○	○			
ピリプロキシフェン	5.37	難溶						○	○	
ルフェヌロン	5.12	<0.06				○	○	○	○	
ブプロフェジン	4.93	0.386				○	○	○	○	
クロルフェナピル	4.83	難溶								○
フルベンジアミド	4.2	0.0299								○
フルジオキソニル	4.12	1.8				○	○	○	○	
フルアジナム	4.03	0.135								○
フェナリモル#	3.69	13.7				○	○	○	○	
フェントロチオン	3.43	14			○					
クレソキシムメチル	3.4	2								○
プロシモドン#	3.1	4.5			○					○
ジエトフェンカルブ#	3.02	27.64								○
フサライド	3.01	2.5	○							
イプロジオン	3.0	13		○		○	○	○		○
ボスカリド	2.96	4.6						○	○	
クロマフェノジド	2.70	1.12						○	○	
フェノブカルブ	2.67	420				○	○	○	○	
アゾキシストロピン#	2.5	6			○	○	○	○	○	
メチダチオン	2.20	200				○	○			
ミクロブタニル#	1.98	132				○	○	○	○	
チオファネートメチル#	1.50	難溶								○
ベノミル#	1.37	0.0029								○
アセタミプリド#	0.80	4250								○
ジメトエート#	0.704	23300		○						
クロチアニジン#	0.70	304				○	○	○	○	
イミダクロプリド#	0.57	610	○			○	○	○	○	○
フロニカミド#	0.30	5200				○	○	○	○	
チアマトキサム#	-0.13	4100				○	○			
ジノテフラン#	-0.549	39800			○		○	○	○	○

出典：The Pesticide manual 14 th

浸透移行性を有するとされる農薬

2. 5年間の事業結果の概要

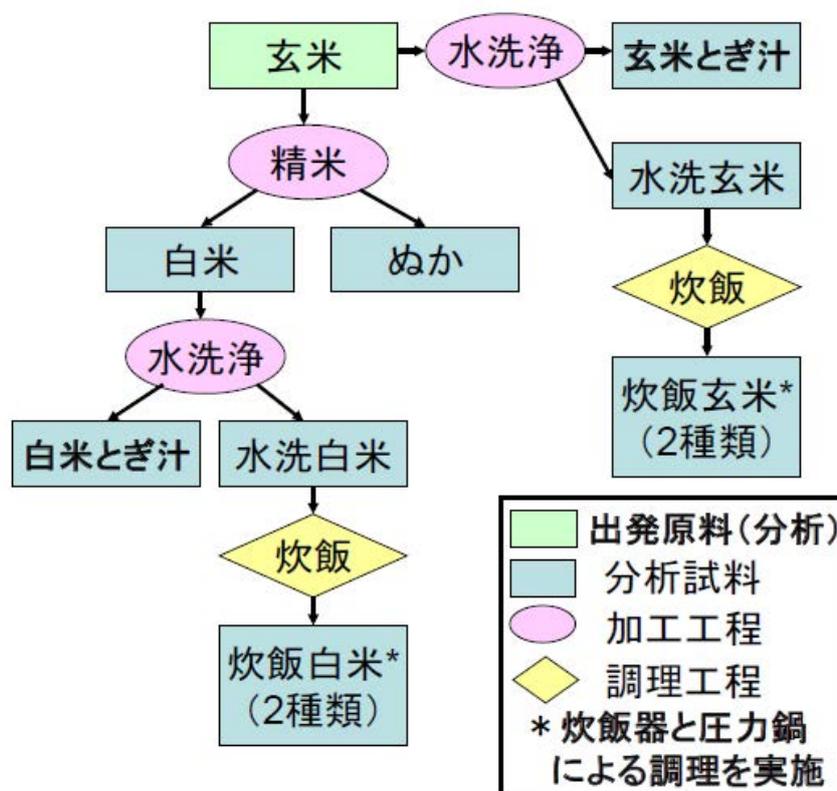
本事業では、対象作物試料における加工および調理品の生成重量と残留濃度から残留量を計算し、出発原料中の残留量の各加工調理品への存在率(%)ならびに出発原料中の農薬濃度(mg/kg)で各加工調理品中の残留農薬濃度を除した比(加工係数)を求めた。

各加工調理品中の存在率と加工係数の値の傾向は類似していることが判明しているため、本項では存在率を用いて取りまとめを行った。複数の圃場で実施した存在率の結果は、平均値でまとめた。

2.1. 米試料

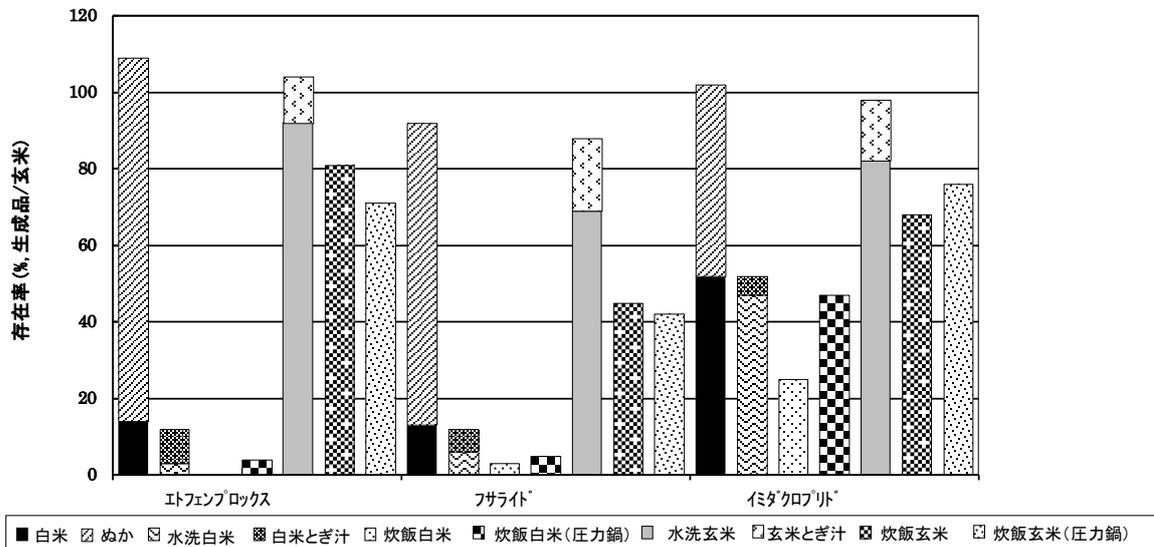
米試料の調理加工試験は平成21年度に実施した。供試農薬は3薬剤(エトフェンプロックス、フサライド、イミダクロプリド)であり、栽培は1圃場(日植防・茨城)で実施し、散布液は5倍濃度とした。

- ・加工調理工程：精米工程、水洗工程、炊飯工程(脱穀工程)
- ・分析対象試料：玄米(出発原料)、白米、糠、水洗玄米、玄米とぎ汁、水洗白米、白米とぎ汁、炊飯玄米(2種類)、炊飯白米(2種類)、(粳米、粳殻)



資料図 米試料の加工調理工程および分析対象試料

米試料の加工調理品における各農薬の存在率の調査結果を下記に示す。

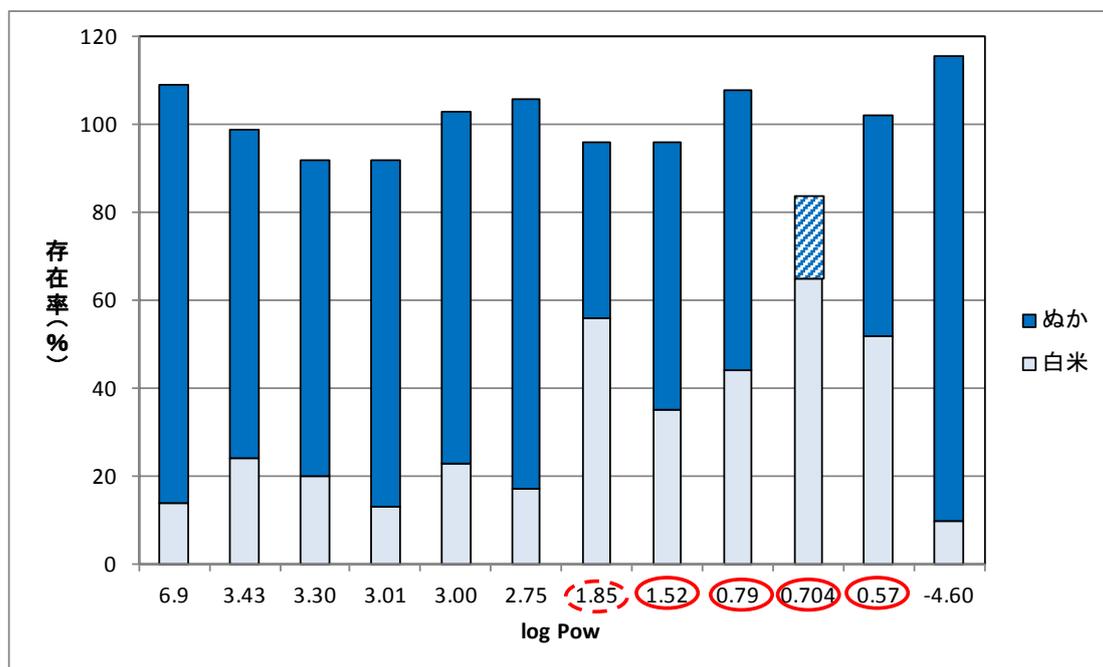


(粳米(100%)から玄米への移行率: エトフェンプロックス 2%, フサライド 4%, イミダクロプリド 6%)

資料図 米試料 (3 薬剤) の加工調理品における存在率
(エトフェンプロックス: 炊飯白米の値は定量限界未満)

出発原料(玄米)中の残留農薬量の白米における存在率は、エトフェンプロックス 14%、フサライド 13%、イミダクロプリド 52%であった。また、ぬかにおける存在率は、それぞれ 95%、79%、50%であった。炊飯白米における存在率は、<13%、3%、25%、圧力鍋を使用して炊飯した場合は、4%、5%、47%であった。また、炊飯玄米における存在率は、81%、45%、68%、圧力鍋を使用して炊飯した場合は、71%、42%、76%であった。

下記に関連事業で実施した結果をまとめた存在率（白米，ぬか）を示す。



資料図 米試料（12 薬剤）の白米およびぬかにおける存在率

（赤実線で囲った薬剤は Pesticide Manual において浸透移行性を有するとされる農薬。

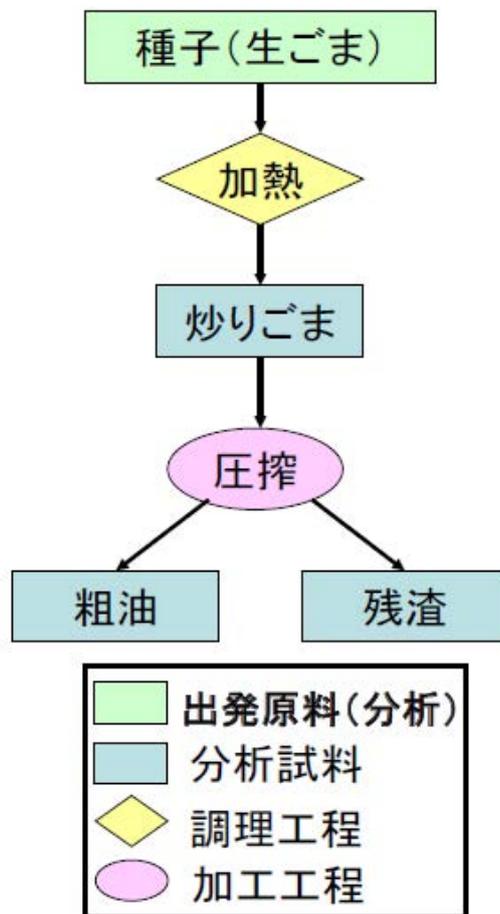
赤点線は浸透移行性をやや有する農薬）

[ジメトエート (log Pow:0.704) のぬかの値は定量限界未満であったが，定量限界相当量が残留していたと仮定して表示][log Pow:-4.60=ジクワット]

2.2. ごま試料

ごま試料の調理加工試験は平成 21 年度に実施した。供試農薬は 3 薬剤（ペルメトリン、イプロジオン、ジメトエート）であり、栽培は 1 圃場（日植防・宮崎）で実施し、散布液は 5 倍濃度とした。

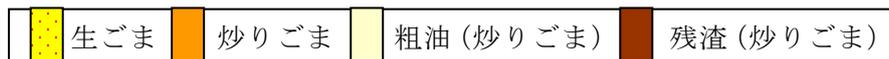
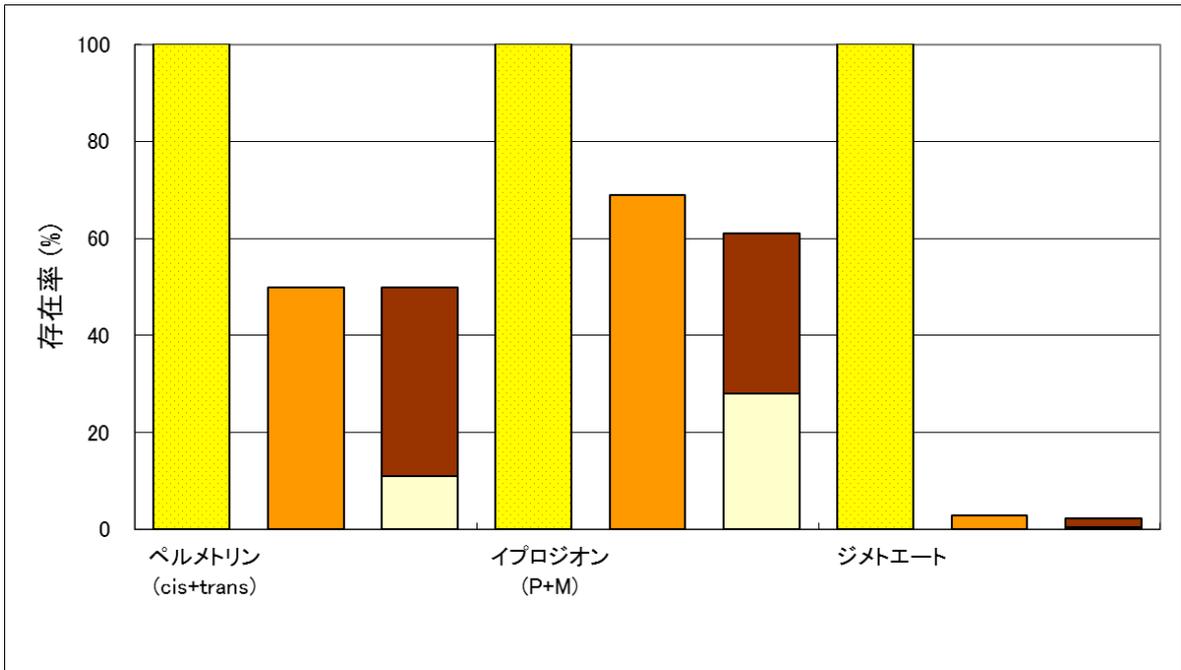
- ・加工調理工程：加熱（焙煎）工程，圧搾（搾油）工程
- ・分析対象試料：種子（生ごま，出発原料），炒りごま，粗油 [炒りごま，生ごま（参考値）]，残渣 [炒りごま，生ごま（参考値）]



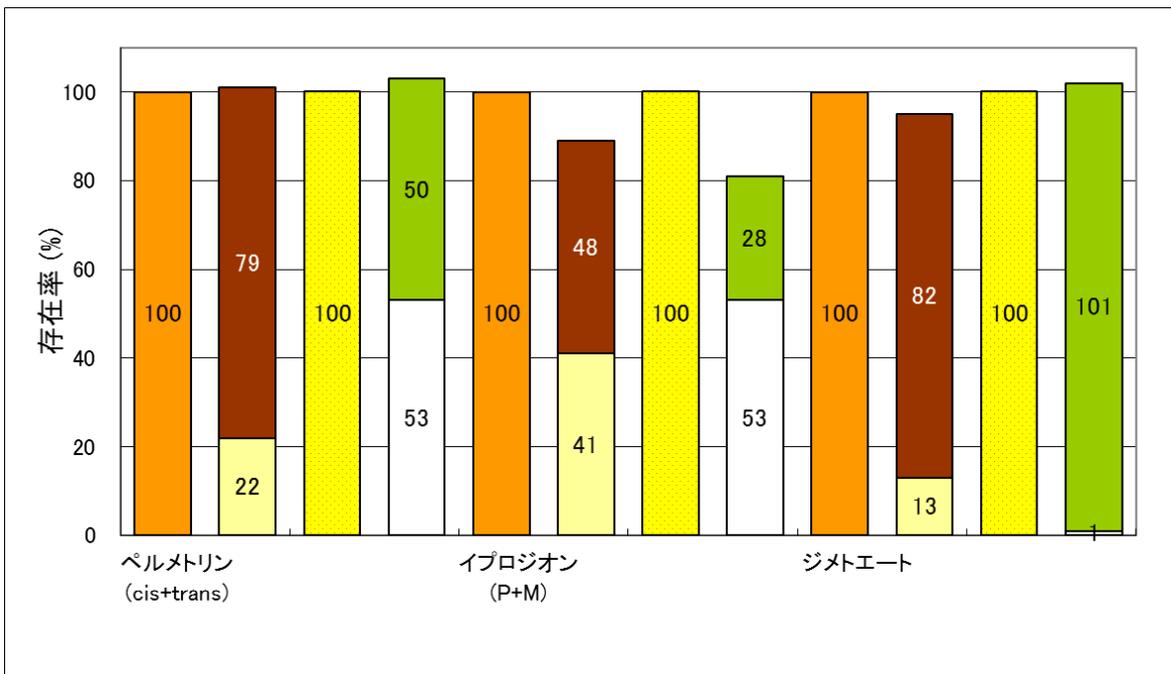
資料図 ごま試料の加工調理工程および分析対象試料

ごま試料の加工調理品における各農薬の存在率の調査結果を次頁に示す。

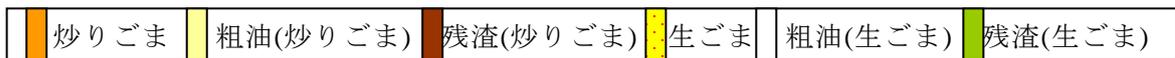
出発原料（生ごま）中の残留農薬量の炒りごまにおける存在率は，ペルメトリン (*cis+trans*) 50%，イプロジオン (P+M) 69%，ジメトエート 3%であった。粗油（炒りごま）における存在率は，ペルメトリン 11%，イプロジオン 28%，ジメトエート 0.4%であった。



(生ごまの値を 100%と表示した場合の炒りごま, 粗油および残渣への移行率)



(上のグラフの炒りごまの値を 100%とした場合の粗油および残渣における存在率)

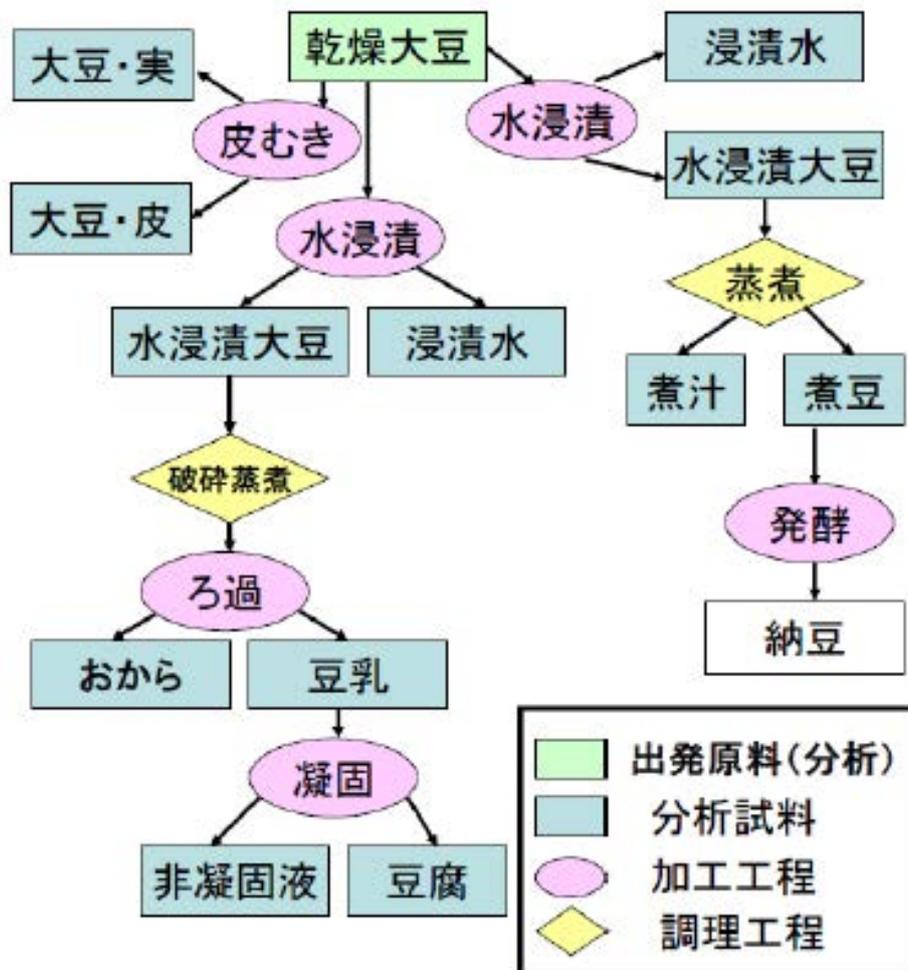


資料図 ごま試料の加工調理品における存在率 (移行率)

2.3. だいず試料

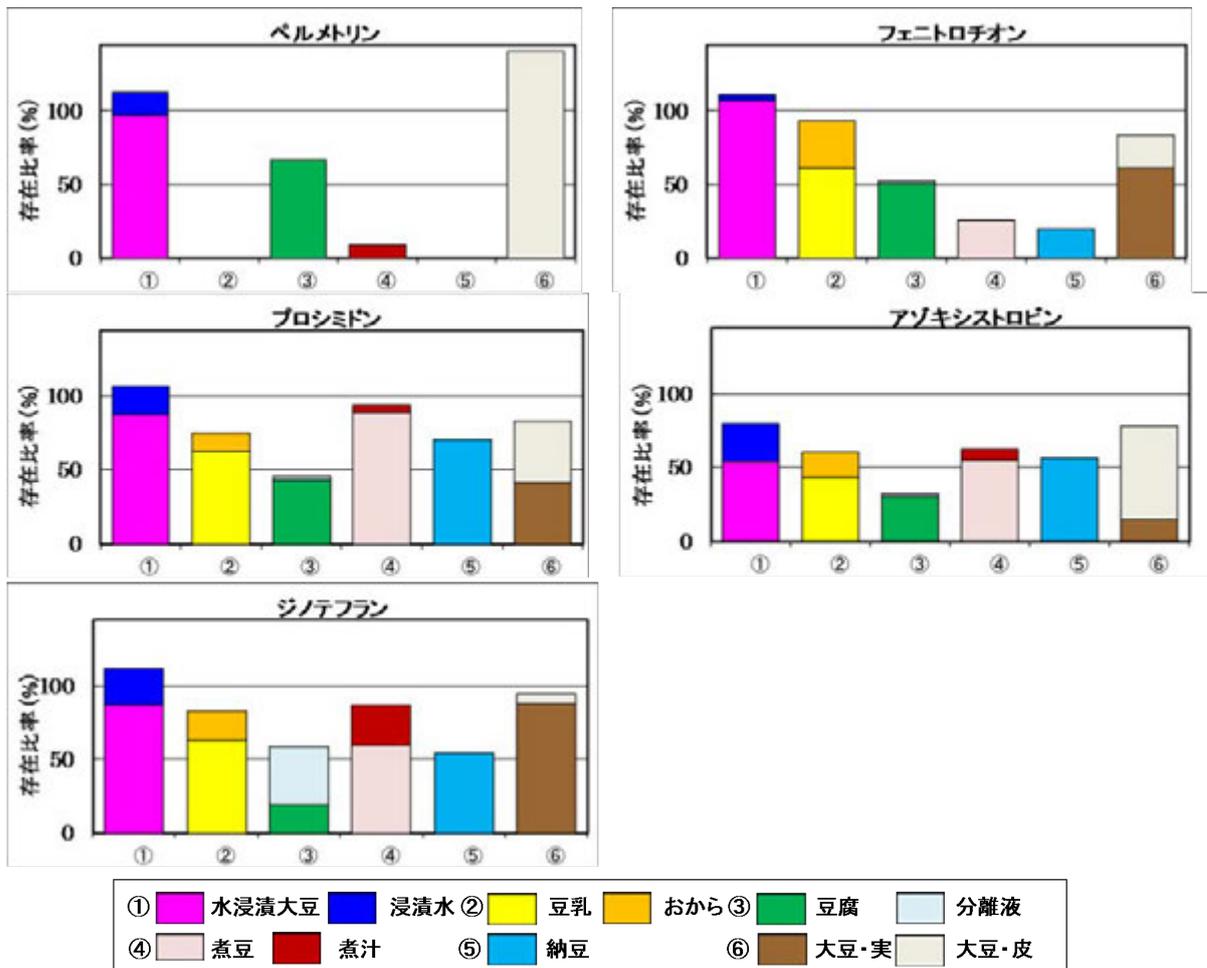
だいず試料の調理加工試験は平成 22 年度に実施した。供試農薬は 5 薬剤（ペルメトリン，フェニトロチオン，プロシミドン，アゾキシストロビン，ジノテフラン）であり，栽培は 1 圃場（日植防・千葉）で実施し，散布液は 5 倍濃度とした。

- ・加工調理工程：豆腐製造工程 [水浸漬，破碎蒸煮（ろ過），凝固]，煮豆工程（蒸煮），発酵の代表として納豆製造工程，皮むき工程（実と皮の分離）
- ・対象試料：乾燥大豆（出発原料），水浸漬大豆，浸漬水，おから，豆乳，豆腐，分離水，煮豆，煮汁，納豆，大豆・実，大豆・皮



資料図 だいず試料の加工調理工程および分析対象試料

だいでず試料の加工調理品における各農薬の存在率の調査結果を下記に示す。



資料図 だいでず試料の加工調理品における存在率 (移行率)

(ペルメトリンの豆乳, おから, 煮豆および納豆の値は定量限界未満)

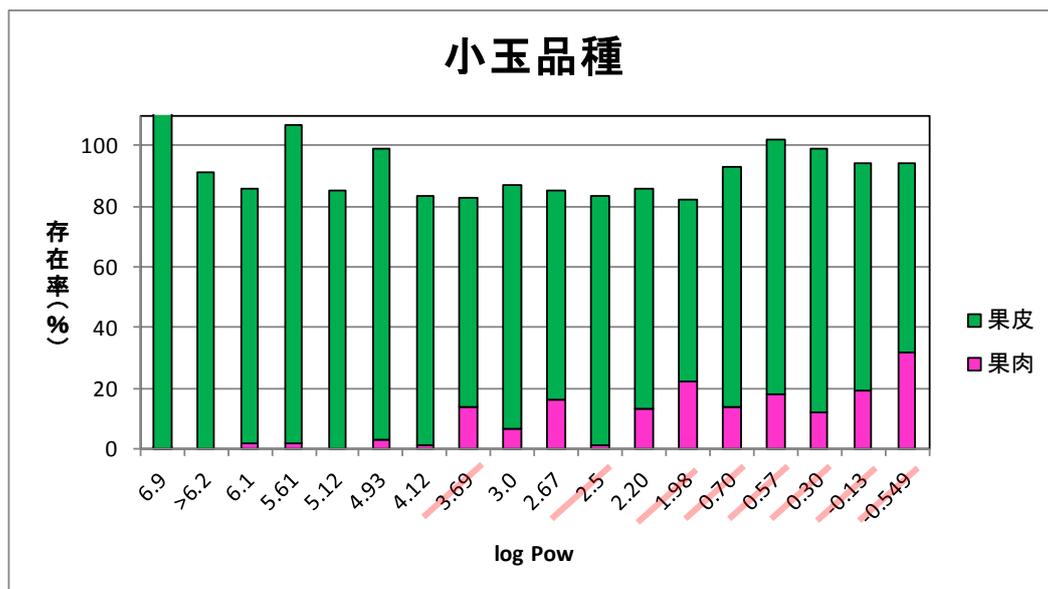
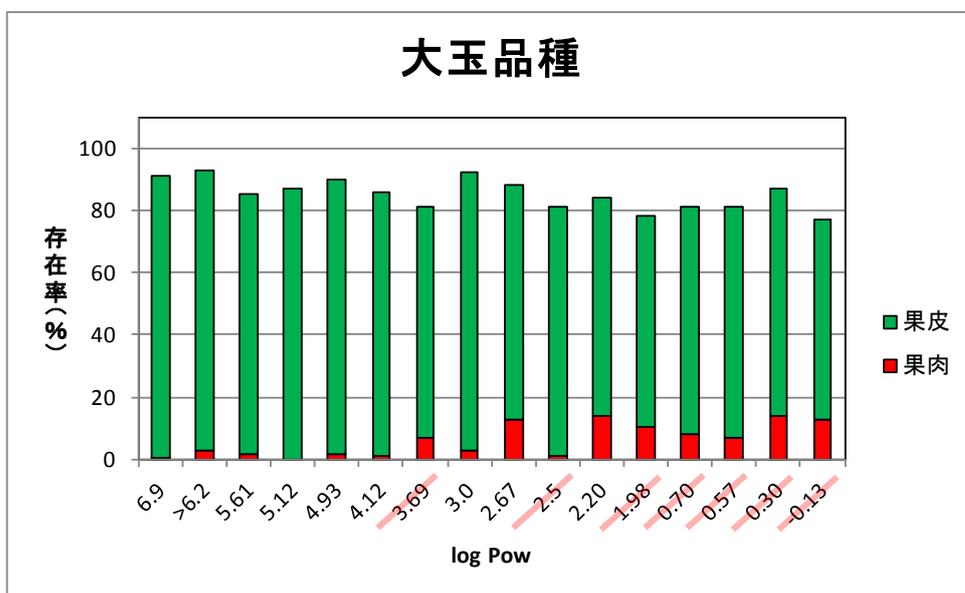
出発原料 (乾燥大豆) 中の残留農薬量の水浸漬大豆における存在率は, ペルメトリン 97%, フェニトロチオン 107%, プロシミドン 88%, アゾキシストロビン 54%, ジノテフラン 87%であった。水浸漬大豆中の残留農薬量の豆乳における存在率は, <16%, 57%, 71%, 72%, 79%, 72%, おからにおける存在率は<52%, 30%, 14%, 31%, 24%であった。豆乳中の残留農薬量の豆腐における存在率は 69%, 84%, 68%, 72%, 30%, 水浸漬大豆中の残留農薬量の煮豆への移行率は, <59%, 23%, 100%, 101%, 69%であった。煮豆中の残留農薬量の納豆における存在率は, 55% (乾燥大豆からの移行率), 79%, 80%, 101%, 91%であった。乾燥大豆中の残留農薬量の大豆・実における存在率は<45%, 61%, 42%, 15%, 88%, 大豆・皮における存在率は 141%, 23%, 41%, 63%, 7%であった。

2.4. すいか試料

すいか試料の調理加工試験は平成 21～25 年度の 5 年間で実施し、大玉品種は 16 薬剤、小玉品種は 18 薬剤を調査対象とした。

栽培は 3 圃場（日植防・茨城，日植防・高知，日植防・宮崎）で実施した。平成 22 年度は散布液を 5 倍濃度としたが，他の年度は慣行栽培とした。慣行栽培と 5 倍濃度での栽培による果肉と果皮の存在率および加工係数の違いは認められなかった。

すいか試料中の残留農薬の果肉および果皮における存在率の調査結果を下記に示す。log Pow の値にマーカーが付いているものは，Pesticide Manual において浸透移行性を有するとされる農薬である。



資料図 すいか試料の存在率 (果肉，果皮)

全果実中残留量（実測値）の果肉における存在率は、薬剤間で差が認められた。7%を超えたものは、大玉品種ではフェナリモル、フェノブカルブ、メチダチオン、ミクロブタニル、クロチアニジン、イミダクロプリド、フロニカミドおよびチオメトキサム（6.9~14%）であった。小玉品種では、フェナリモル、フェノブカルブ、メチダチオン、ミクロブタニル、クロチアニジン、イミダクロプリド、フロニカミド、チオメトキサムおよびジノテフラン（12~32%）であった。

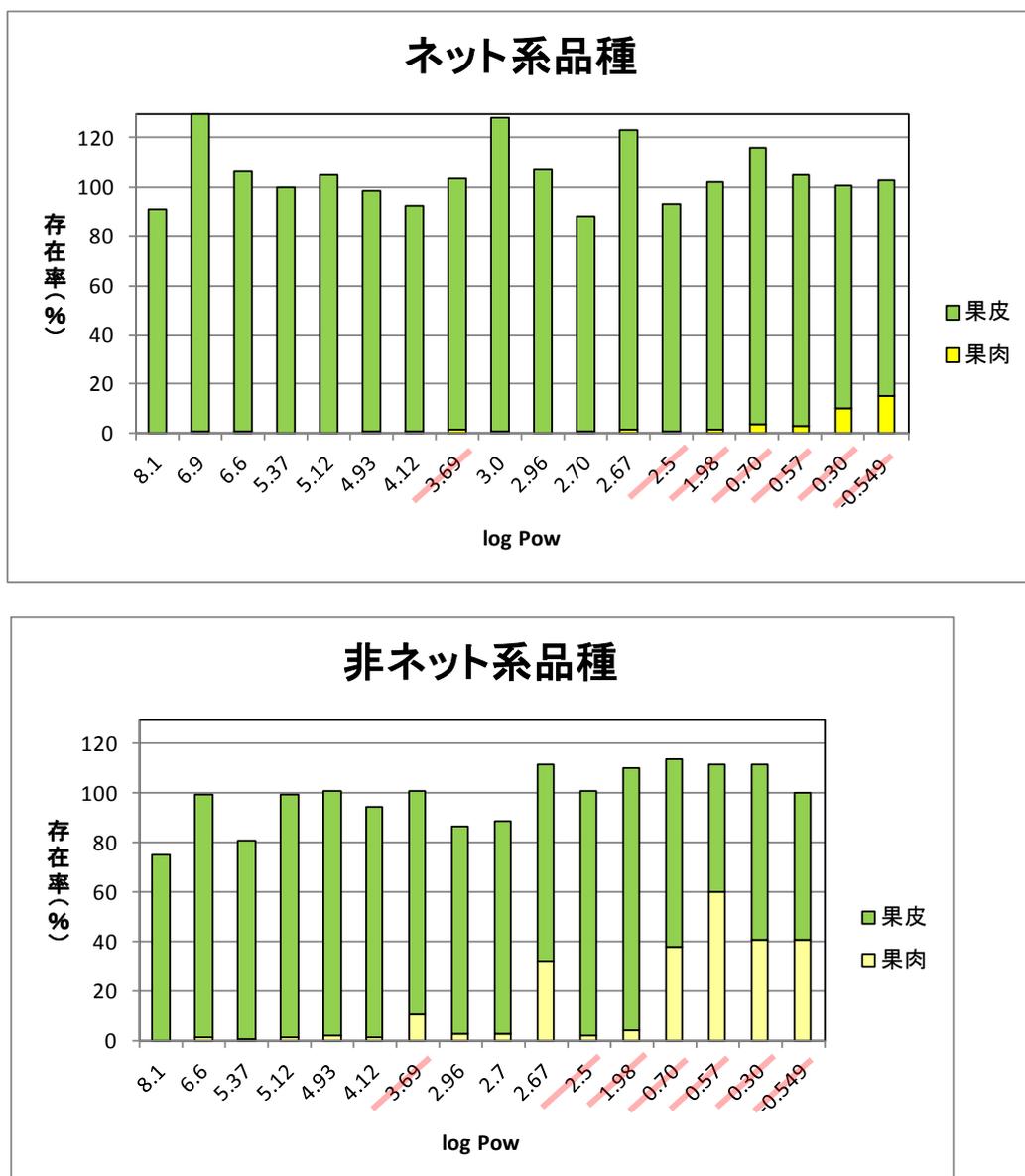
果肉中の存在率は、大玉品種で高かったものは小玉品種でも高く、品種間での差は認められなかった。しかし、値は概ね小玉品種の方が大玉品種よりも高かった。

2.5. メロン試料

メロン試料の調理加工試験は平成 21～25 年度の 5 年間で実施し、ネット系品種で 16 薬剤、非ネット系品種（まくわうりを含む）で 18 薬剤を調査対象とした。

すいか試料と同様に、栽培は 3 圃場（日植防・茨城、日植防・高知、日植防・宮崎）で実施した。平成 22 年度は散布液を 5 倍濃度としたが、他の年度は慣行栽培とした。慣行栽培と 5 倍濃度での栽培による果肉と果皮の存在率および加工係数の違いは認められなかった。

メロン試料での残留農薬の果肉および果皮における存在率の調査結果を下記に示す。log Pow の値にマーカーが付いているものは、Pesticide Manual において浸透移行性を有するとされる農薬である。



資料図 メロン試料の存在率 (果肉, 果皮)

メロン試料の全果実中残留量（実測値）の果肉における存在率は、薬剤間で差が認められた。ネット系品種では、10%を超えるものはフロニカミド（10%）とジノテフラン（15%）だけであった。非ネット系品種では、フェナリモル（11%）、フェノブカルブ（32%）、クロチアニジン（38%）、イミダクロプリド（60%）、フロニカミド（41%）およびジノテフラン（41%）であった。

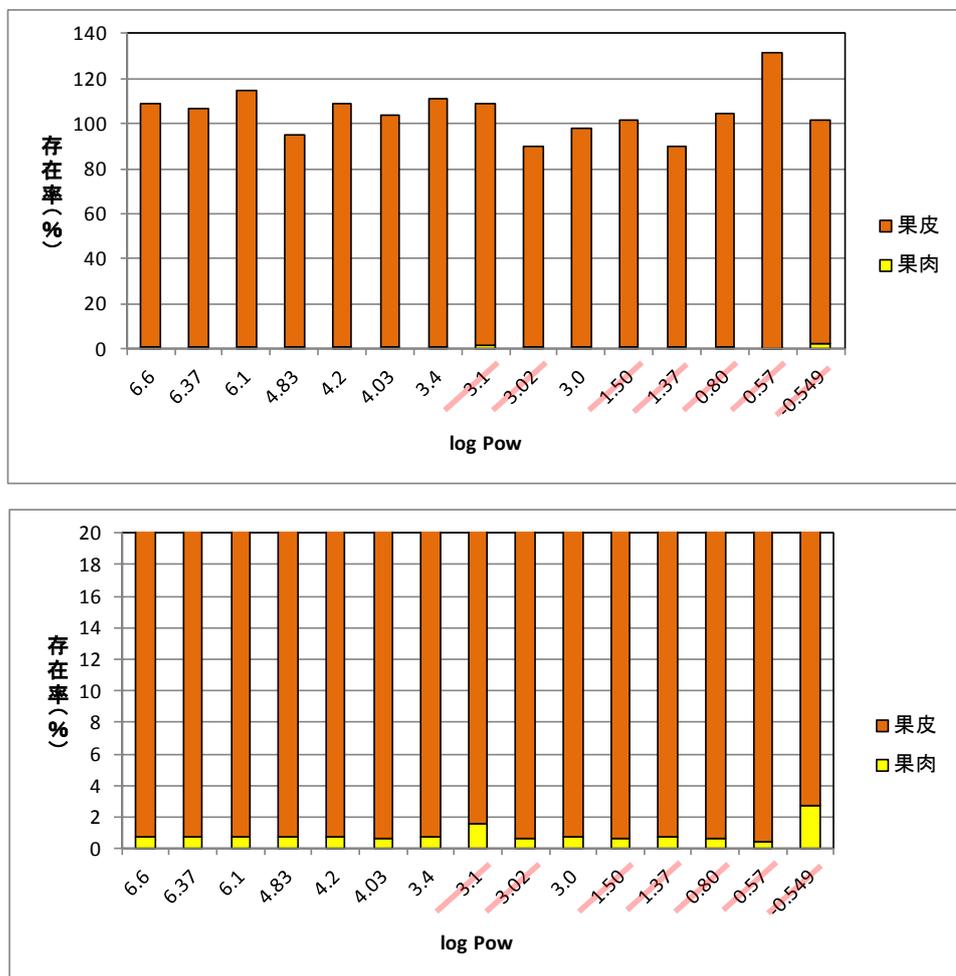
品種間の差をみると、全ての薬剤で明らかにネット系よりも非ネット系品種で果肉中の存在率が高かった。

2.6. キウイフルーツ試料

キウイフルーツ試料の調理加工試験は平成 21～25 年度の 5 年間で実施し、15 薬剤を調査対象とした。

栽培は 4 圃場（日植防・茨城，日植防・山梨，日植防・高知，日植防・宮崎）で実施した。平成 22 年度は散布液を 5 倍濃度としたが，他の年度は慣行栽培とした。慣行栽培と 5 倍濃度での栽培による果肉と果皮の存在率および加工係数の違いは認められなかった。

キウイフルーツ試料での残留農薬の果肉および果皮における存在率の調査結果を下記に示す。log Pow の値にマーカーが付いているものは，Pesticide Manual において浸透移行性を有するとされる農薬である。



資料図 キウイフルーツ試料の存在率 (果肉, 果皮)

全果実中残留量（実測値）の果肉の存在率は，浸透移行性を有するとされるプロシミドンとジノテフランではやや高く（1.6%および 2.7%），他の薬剤では低かった（0.4～0.8%）。

3. 総括考察

3.1. 米試料

玄米中の農薬残留量の白米における存在率は、log Pow の小さい農薬ほど値が高かった（イミダクロプリド>エトフェンプロックス、フサライド）。イミダクロプリドは、浸透移行性を有するとされる農薬でもあり、その性質が白米中での存在率が高い理由のひとつであると考えられる。

白米における農薬残留量の存在率について、2種類の炊飯工程で差が生じた。検討した3薬剤すべて、炊飯器を使用した場合の存在率は圧力鍋を使用した場合よりも低かった。炊飯器での炊飯時間は約30分間、圧力鍋での炊飯時間は加圧時間5分間、自然放置約5分間であり、圧力の差だけではなく、調理時間が影響しているとも考えられる。玄米の場合は、2種類の炊飯工程で存在率の差は認められなかった。

3.2. ごま試料

生ごま中の農薬残留量の炒りごまにおける存在率は、すべての農薬で低かった。特に低かったジメトエートは、熱分解性を有することが原因であると考えられる。生ごま中の農薬残留量の粗油（炒りごま）における存在率もジメトエートは低かった（0.4%）。炒りごまではなく、生ごまを圧搾した場合の粗油（生ごま）におけるジメトエートの存在率は1%であり、残渣中の存在率は101%であった。ジメトエートは、いずれの粗油においても存在率が低いことが判明し、これはlog Pow が小さいことが原因の一つであると示唆された。炒りごま中残留農薬量の粗油における存在率は、イプロジオン（41%）>ペルメトリン（22%）>ジメトエート（13%）であった。log Pow の値から判断するとペルメトリンの方が高いことが予測されるが、イプロジオンの方が高かった原因は不明である。

3.3. だいず試料

乾燥大豆中の農薬残留量の水浸漬大豆における存在率は54%~107%であり、薬剤間で差があったが、アズキシストロビン（54%）の値を除くと87~107%とその差は小さかった。農薬のlog Pow との相関も認められなかった。だいずの構造から水溶解性の高い農薬でも浸漬水にはあまり移行しないことが示唆された。豆乳およびおからにおける存在率も薬剤間での差が小さかった。ただし、ペルメトリンでは出発原料（乾燥大豆）の残留濃度が低かったため、豆乳およびおからの残留濃度は定量限界未満となり評価できなかった。

蒸煮工程では、煮豆において薬剤間で差が生じた。水浸漬大豆中の残留量の煮豆における存在率は、フェニトロチオンが23%と低かった。これは、フェニトロチオンの物理的・化学的性質から加熱・加圧による分解と蒸散が考えられる。log Pow の値の小さいジノテフランは、煮豆における存在率が他の薬剤よりも低く煮汁中の存在率が高

かった。

発酵工程では、煮豆中の農薬残留量の納豆における存在率は 79~101% (ペルメトリンを除く) であり、薬剤間に大きな差は認められなかった。検討した薬剤に対して、納豆菌 (枯草菌) は分解性を示さないことが示唆された。発酵終了後の長期保管については、当該事業では検討しなかった。

3.4. すいか試料

log Pow 値が大きく、浸透移行性が低いと考えられる農薬は果肉における存在率が低く、おそらく果実表面に残留し果肉中に移行し難いものと推察された。アゾキシストロピンは浸透移行性を有すると言われているが、水溶解度 (6 mg/L, 20°C) が低いため内部に移行しなかったものと推察された。その他の浸透移行性を有するとされる薬剤は、果肉への移行が認められた。

品種間の差については、果肉における存在率の傾向に顕著な差はなかったが、大玉品種よりも小玉品種の方がやや存在率が高かった。小玉品種での果肉中存在率が高めである理由の一つとしては、果皮の厚さ (一般的に大玉>小玉) が関連していると考えられる。

3.5. メロン試料

すいかと同様、log Pow 値が大きく、浸透移行性が低いと考えられる農薬は果肉における存在率が低かった。メロンでは果肉における存在率には品種間の差が顕著に認められた。非ネット系品種では、浸透移行性を有する農薬のうちアゾキシストロピン (2.1%) とミクロブタニル (4.3%) 以外は果肉中の存在率は 30%以上 (32~60%) であった。また、浸透移行性農薬ではないフェノブカルブの存在率も 11%と高かった。フェノブカルブの場合は、水溶解度 (420 mg/L) が大きいので移行し易かったことが示唆される。他の薬剤はいずれも 3%以下であった。一方、ネット系品種では、浸透移行性を有する農薬でも、フロニカミドとジノテフランで果肉中の存在率がやや高かったものの (それぞれ 10%および 15%)、他の 4 薬剤では低く、概ね 4%以下であった。

これらの検討結果から、メロンにおける存在率はメロンの表面形状 (植物組織学的な差) に大きく影響されること、すなわち木質のネットで覆われているネット系メロンでは、浸透移行性の薬剤であっても果肉中への移行が阻害されることが明確となった。

3.6. キウイフルーツ試料

キウイフルーツでは、浸透移行性を有するとされる農薬でも果肉における存在率が低く、プロシミドンとジノテフランのみ若干高い値を示した (1.6%, 2.7%)。キウイフルーツでは浸透移行性が高いとされる農薬であっても、果肉には移行し難いことがほぼ

結論付けられるのではないかと思われる。

メロンのネット系と非ネット系で見られた果肉中の存在率の差（概ね浸透移行性の差と推定される）とキウイフルーツの結果を合わせて考えると、植物体の表面形状（植物組織学的な差）は存在率を律する大きな要因であると考えられる。